第176号　令和８年（2026年）５月25日発行

公益社団法人 日本学生陸上競技連合 会報

向上と進展

[発行所] 公益社団法人 日本学生陸上競技連合
〒151-0053　東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542　FAX 03-5304-5569

2026年度を迎えて

会長　**松本 正之**

新しい年度が始まり、皆様におかれましては心持ちも新たにシーズンをお迎えのことと思います。また、平素より日本学生陸上競技連合の運営に対し格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年度も関係者の皆様のお力添えにより、本連合主催競技会を順調に開催することができました。

４月に開催した2025日本学生陸上競技個人選手権大会と６月に開催した天皇賜杯第94回日本学生陸上競技対校選手権大会では、大会新記録や日本学生記録など好記録が多く樹立され、日本学生陸上界のレベル向上を感じさせる大会となりました。

また、国際舞台への派遣事業として、７月にはFISUワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール）、３月には世界大学クロスカントリー選手権大会（イタリア・カッシーノ）への派遣を実施し、出場した日本代表選手たちは多くの種目で入賞を果たすなど、国際舞台に於いて競技力の向上を示すことができ、充実した１年となりました。

さらに、９月には34年ぶりに世界選手権が東京で開催されました。日本代表として世界の舞台に臨んだ選手の中には、本連合主催大会を足がかりとして活躍した選手も見られました。

今年９月には名古屋にてアジア競技大会が開催されますが、アジア最高峰の舞台に於いて開催国代表として学生選手の活躍も期待されます。そのためにも、競技者諸君は、一層の努力を積み重ね、それぞれの目標に向かって進んでほしいと思います。

今年度の本連合主催競技会は、４月24日（金）～26日（日）の2026日本学生陸上競技個人選手権大会から始まり、６月27日（土）に日本ＧＰシリーズにもなっている秩父宮賜杯第66回実業団・学生対抗陸上競技大会、９月５日（土）～７日（月）には天皇賜杯第95回日本学生陸上競技対校選手権大会を日産スタジアム（神奈川県横浜市）で開催いたします。

秋の駅伝シーズンは、今年も10月の出雲全日本大学選抜駅伝競走（島根県出雲市）からスタートし、同月の全日本大学女子駅伝対校選手権大会（宮城県仙台市）、11月の全日本大学駅伝対校選手権大会（愛知県名古屋市～三重県伊勢市）、そして12月の全日本大学女子選抜駅伝競走（静岡県富士宮市～富士市）と続く予定です。選手たちの力強い走りは、全国のテレビ中継や配信を通じて全国の学生駅伝ファンを惹きつけるものと思います。

そして、駅伝シーズンが終わると、２月には男子の学生ハーフマラソン選手権（香川県丸亀市）、３月には学生競歩選手権（石川県能美市）、女子の学生ハーフマラソン選手権（島根県松江市）と続きます。さらに、これらの全国大会と並行して、各地区学連や各大学においてもそれぞれの主催大会や全国大会の予選を兼ねた大会が開催されます。そのすべての大会で、選手の皆さんが日ごろの鍛錬の成果を遺憾なく発揮し、陸上競技を通じて、「向上と進展」の旗の下、一人ひとりが陸上競技者としてだけでなく学生として一層成長できる充実の一年となるよう願っています。

最後になりますが、学生陸上競技を支えていただいている関係の皆さまには、今年もより一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

向上と進展会報176.indd　1　　2026/05/15　12:05

公益社団法人 日本学生陸上競技連合
会報 第176号（令和８年５月25日発行）

向上と進展

目　次

会長あいさつ　松本正之 …… 1

【大会報告】

第29回日本学生ハーフマラソン選手権大会 …… 3

第109日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走 …… 4

東京マラソン2026 …… 5

第20回日本学生20㎞競歩選手権大会 …… 6

第29回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会 …… 7

2026日本学生陸上競技個人選手権大会 …… 8

【海外派遣】

2026世界大学クロスカントリー選手権大会（イタリア/カッシーノ） …… 11

【会議報告】

第77回理事会 …… 16

第78回理事会 …… 28

第51回学生幹部役員研修会 …… 29

2025年日本学生新記録章贈与式 …… 30

令和７年度第71回指導者会議 …… 31

【その他】

普通会員数報告 …… 34

賛助会員募集／入会報告／編集後記 …… 35

向上と進展会報176.indd 2　2026/05/15 12:05

【大会報告】
第29回日本学生ハーフマラソン選手権大会

幹事長　桑原 悠真

1．大 会 名：第29回日本学生ハーフマラソン選手権大会
2．大会期日：2026年２月１日（日）
3．場　　所：香川県・丸亀市　香川県立丸亀競技場付属ハーフマラソンコース
4．エントリー数：300名
5．派遣役員（敬称略）：有吉　正博、大後　栄治、鶴崎　健一、大朝　太、桑原　悠真、河本　賀帆、大西　清司、河野　匠　計８名
6．大会総括

２月１日、今回も香川丸亀国際ハーフマラソン（以下、丸亀ハーフ）との併催として、第29回日本学生ハーフマラソン選手権大会を開催いたしました。日本学生ハーフマラソン選手権は、昨年から丸亀ハーフへと舞台を移しており、昨年は日本記録や日本学生記録が樹立されたこの丸亀の地で今年も高速レースが展開されました。

大会当日は、気温10度前後、湿度30％前後で晴れ間の広がる、良好なコンディションでレースがスタートしました。５km地点では丸亀ハーフの招待選手たちを中心とした先頭集団が形成され、昨年よりも速い13分58秒前後で通過しました。10km地点では少しずつ集団が絞られ始め、野中恒亨選手（國學院大）らを先頭に27分50秒で通過しました。10kmの通過タイムは、日本記録が樹立された昨年より10秒以上速く、今年もさらなる記録更新に期待が高まりました。また、10秒ほど離れた後続では、川﨑颯選手（筑波大）、髙石樹選手（國學院大）、佐藤大介選手（中央大）など学生選手を中心とした集団が続きました。

レース終盤にさしかかった15km地点では、リチャード・エティーリ選手（東京国際大）が先頭集団から抜け出し、イマニエル・マル（トヨタ紡織）が追いかける展開となりました。学生選手権では引き続き野中選手が先頭をキープしているものの、後続では佐藤選手、川﨑選手、髙石選手、山本悠選手（順天堂大）などが続き、必死に前を追いかけました。そして、20km手前では佐藤選手が野中選手を捉えて先頭に立つと、後続の選手たちも佐藤選手を追ってスパートをかけ、熾烈な表彰台争いが繰り広げられました。

フィニッシュ地点ではリチャード・エティーリ選手が15km手前からの独走で、大会新記録となる59分07秒で丸亀ハーフの優勝を飾りました。そして、白熱の学生選手権争いは、佐藤選手が逃げ切り、１時間０分36秒の好記録で優勝。佐藤選手から４秒差の２位に山本選手、さらに４秒差の３位には後半猛烈な追い上げを見せた大濱逞真選手（大東文化大）が入りました。

今大会では、10位までの選手が１時間０分台、37位までが１時間１分台を記録するなど、昨年に続き高速レースとなりました。また、丸亀ハーフ全体としても、リチャード・エティーリ選手が昨年の同大会で記録された日本学生記録を更新するなど、大変盛り上がった大会となりました。

最後になりますが、今大会を併催するにあたりご尽力いただいた香川丸亀国際ハーフマラソン大会組織委員会事務局の皆様をはじめ、ご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

日本学生ハーフマラソン選手権は佐藤大介（中央大）が1時間0分40秒で初V

中盤から独走となったリチャード・エティーリ（東京国際大、左）が59分07 秒の学生新記録で優勝

向上と進展会報176.indd 3　2026/05/15 12:06

【大会報告】
第109回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走

九州学連　幹事長　伊津野 志

1．大会期日：2026年２月21日（土）
2．場　　所：福岡県福岡市　海の中道海浜公園クロスカントリーコース
3．派遣役員：岩元　慎一、片平　誠人、小﨑　康志郎、伊津野　志　以上４名
4．競技結果（学生抜粋／別表）
5．大会総括

２月21日（土）、福岡県海の中道海浜公園クロスカントリーコースにて、第109回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走が開催されました。本大会はアジア陸上競技クロスカントリー選手権大会と併催で行われました。大会当日は風も弱く、例年通りの気温で晴天に恵まれ、競技に適した環境の下での競技会でした。本大会では海の中道海浜公園の使用規則に則り、円滑な大会運営が行われました。

14時00分にシニア女子10kmの部が一斉にスタートしました。序盤からリ・チンチン選手（中国）、川口桃佳選手（ユニクロ）、樺沢和佳奈選手（三井住友海上）などがレースを引っ張る展開となりました。１周目は大きな集団ではあったが隊列は縦長になり、先頭集団が徐々に絞られていく形となりました。終盤には樺沢和佳奈選手（三井住友海上）、齋藤みう選手（パナソニック）らが先頭を引っ張り、先頭集団は16名ほどで２周目に入りました。２周目は先頭争いが激しく行われる積極的なレース展開となり、16名程度だった集団は３周目の序盤に６名となりました。３周目の中盤には齋藤選手、鈴木選手、樺沢選手が第２集団とのリードを徐々に広げました。４周目、齋藤選手が下り坂を利用し、ペースを上げて一気にリードを広げ、５周目も力強い走りでそのまま後ろを寄せ付けず、熾烈な２位争いを制した樺沢選手に６秒差をつけ33分38秒でフィニッシュしました。

学生ではレース序盤から上位をキープした村山愛美沙選手（東北福祉大）が７位でゴールし、学生ではトップの記録を残しました。村山選手には日本学生陸上競技連合杯が授与されました。また、一時先頭集団で先頭争いを繰り広げた山田祐実選手（大阪学院大）が学生２位、田島愛理選手（順天堂大）が学生３位になりました。学生上位８名は37分台以内でフィニッシュして、実業団選手に引けを取らない活躍が光るレースとなりました。

14時45分にシニア男子10kmのレースがスタートしました。序盤より砂田晟弥選手（SUBARU）が飛び出し、そのまま先頭を引っ張りました。２周目では先頭集団は縦長の大きい集団で、シン・アルマンジョット選手（インド）や中村友哉選手（大阪ガス）が先頭でレースを引っ張っていました。３周目になると先頭集団が23名ほどになり、シン選手や中村選手が先頭を引っ張る形となります。学生では野中恒亨選手（國學院大）、岡田開成選手（中央大）、山本悠選手（順天堂大）が先頭集団に食らいつき、３周目は大きな集団で牽制し合う形になりました。４周目に入ると井川龍人選手（旭化成）、野中選手が先頭を引っ張り、先頭集団は７人に絞られたました。５周目に入ると西澤侑真選手（トヨタ紡織）が飛び出し、勝負を仕掛けましたが、中盤に吸収され、シン選手と三浦龍司選手（ＳＵＢＡＲＵ）、西澤選手、野中選手で激しい先頭争いになりました。三浦選手がラストスパートで後方を突き放して29分20秒でゴールし、その１秒後にシン選手が２位でフィニッシュしました。

学生では、レース終盤まで先頭争いを繰り広げていた野中選手が29分26秒の３位でフィニッシュし、学生１位となりました。野中選手には日本学生陸上競技連合杯が授与されました。序盤からレースを引っ張っていた山本選手が29分34秒で学生２位となりました。また、岡田選手が学生３位に入りました。学生上位８名の選手は、全員29分台及び30分台でフィニッシュし、高い競技レベルを示しました。本大会を通して、学生選手が社会人選手と互角に渡り合い、積極的に先頭集団でレースを展開する姿が多く見られました。総じて、学生陸上界の競技力の高さが際立つ大会でありました。

■シニア男子10㎞上位成績（学生上位８名）

順位	氏名	フリガナ	所属	記録
3	野中　恒亨	ノナカ ヒロミチ	國學院大学	29:26
6	山本　　悠	ヤマモト ハルカ	順天堂大学	29:34
7	岡田　開成	オカダ カイセイ	中央大学	29:42
9	池間　凛斗	イケマ リイト	順天堂大学	29:53
13	吉岡　大翔	ヨシオカ ヒロト	順天堂大学	30:05
20	迎　　暖人	ムカイ ハルト	東洋大学	30:26
22	新妻　玲旺	ニイヅマ レオ	神奈川大学	30:31
25	平川　瑠星	ヒラカワ リュウセイ	神奈川大学	30:34

■シニア女子10㎞上位成績（学生上位８名）

順位	氏名	フリガナ	所属	記録
7	村山愛美沙	ムラヤマ アミサ	東北福祉大学	34:05
8	山田　祐実	ヤマダ ユウミ	大阪学院大学	34:10
9	田島　愛理	タジマ アイリ	順天堂大学	34:16
16	福山　　光	フクヤマ ヒカル	福岡大学	35:32
18	佐内　瑞希	サナイ ミズキ	大阪学院大学	35:51
19	平尾　暁絵	ヒラオ アキエ	大東文化大学	35:52
24	本田心七海	ホンダ ミナミ	大阪学院大学	36:32
25	岡本　彩稀	オカモト サキ	清和大学	36:39

男子の学生トップは野中恒亨（國學院大、右から2人目）。日本選手権、アジアクロカンでもともに3位に入った

女子の学生トップを占めた村山愛美沙（東北福祉大、左から2人目）

向上と進展会報176.indd 4　2026/05/15 12:06

【大会報告】
東京マラソン2026

常任幹事　露木 彰映

1．大 会 名：東京マラソン 2026
2．大会期日：2026年３月１日（日）
3．日本学連推薦選手：男子５名

東京マラソン 2026　日本学連準エリート枠推薦選手

順位	選手名	大学名	学年(当時)	記録
76	二村昇太朗	日本体育大学	4	2時間16分17秒
124	大竹　雄大	日本体育大学	4	2時間21分47秒
欠場	新井　友裕	専修大学	4	—
欠場	堀　　颯介	明治大学	4	—
欠場	田中　悠貴	信州大学	4	—

4．大会総括

日本最大級のマラソン大会となる本大会。今年も約３万9000人のランナーたちが、東京都庁をスタートし、日本橋、浅草、東京スカイツリー、銀座、東京タワーなどの東京の名所を駆け抜け、東京駅前でフィニッシュとなる風光明媚なコースを駆け抜けました。昨年同様、今大会も晴れとなりましたが、最高気温は17度に達するなど例年より高い気温の中でレースが行われました。

本連合からは準エリート枠に上記の計５名の選手を推薦し、２名の選手が出場しました。

レースは、２時間１分台のペースで設定されたペースメーカーを先頭とする第１集団よりも前に橋本龍一選手（プレス工業）が飛び出す展開に。第１集団には海外招待選手、２時間３分台に設定された第２集団には海外招待選手に加え、大迫傑選手（LI-NING）、鈴木健吾選手（横浜市陸協）、近藤亮太選手（三菱重工）、工藤慎作選手（早稲田大）といった選手が続く展開となりました。

レース開始から先頭を独走していた橋本選手は26.5km付近で第１集団に追いつかれて、先頭を譲るかたちに。第１集団では最後まで複数人による競り合いが展開されていましたが、昨年覇者のタデセ・タケレ選手（エチオピア）が２時間３分37秒で制し、連覇を果たしました。

後続の日本人トップ争いは、大迫選手、鈴木選手、近藤選手、工藤選手によって繰り広げられていました。36km過ぎ、大迫選手の仕掛けに鈴木選手が反応したものの、近藤選手と工藤選手がこれについていけずに後退。その後、大迫選手、鈴木選手という新旧マラソン日本記録保持者による激しい日本人トップ争いが繰り広げられましたが、41km過ぎに大迫選手が鈴木選手を突き放し、日本人トップとなる２時間５分59秒でフィニッシュしました。日本人２位に鈴木選手が入り、日本人３位には第３集団から後半見事な追い上げを見せた市山翼選手（サンベルクス）が入りました。

学生競技者では、初マラソンながら終盤まで日本人先頭争いを演じた工藤選手が学生歴代４位となる２時間７分34秒という好タイムをマークし、日本人５位と健闘しました。また、本連合推薦選手では二村昇太朗選手（日本体育大）が最上位となる総合77位の２時間16分17秒でフィニッシュしました。

女子はブリジッド・コスゲイ選手（ケニア）が２時間14分29秒の大会新記録かつ日本国内最高記録でフィニッシュする圧巻の走りで優勝。日本人トップはこの大会を最後に現役を退く細田あい選手（エディオン）が２時間23分39秒でフィニッシュし、有終の美を飾りました。

今大会では学生選手が社会人選手たちと共に激しい日本人トップ争いを繰り広げるなど、昨今の学生選手の競技力向上を印象付ける大会となりました。近年、男子マラソンで立て続けに日本学生記録が更新されるなど、学生選手も着実に力をつけてきています。日本のマラソン界全体として競技力の向上が著しい中、学生競技者も積極的にマラソンに挑戦し、自身の可能性を広げていってほしいと思います。

学生歴代4位の2時間7分34秒で日本人5位を占めた工藤慎作選手（早稲田大）

日本学連推薦選手のトップは二村昇太朗（日本体育大）だった

向上と進展会報176.indd　5　　2026/05/15　12:06

【大会報告】
第20回日本学生競歩選手権大会

副幹事長　河本 賀帆

1．大 会 名：第20回日本学生競歩選手権大会
2．大会期日：2026年３月16日(日)
3．場　　所：石川県・能美市　能美市営コース(往復1.0km)
4．エントリー数：男子42名、女子27名
5．派遣役員(敬称略)：福島　洋樹、河本　賀帆、八馬　瑚々美、吉村　美絵子、河野　匠　計５名
6．大会総括

３月16日、石川県能美市にて、第20回日本学生競歩選手権大会が、第50回全日本競歩能美大会との併催で行われました。なお、国際ルールの変更により、これまで20kmで開催されていた大会は、今年からハーフマラソンと同じ距離で実施されました。

大会当日は晴天に恵まれ、午後１時30分、男女共にスタートしました。冷たい風が吹く中、原圭佑選手（京都大）がスタート直後から社会人選手に食らいつき、昨年に引き続き学生１位でゴールしました。10000ｍ競歩でＵ20日本記録保持者である逢坂草太朗選手（東洋大）は15kmまで先頭集団に食らいついていましたが、終盤苦しみ学生２位でフィニッシュしました。そして学生３位には吉迫大成選手（東京学芸大）と続きました。

男子と同時刻にスタートした女子のレースでは、昨年の８月に行われたFISUワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール）の日本代表選手である谷純花選手（金沢学院大）がスタート直後からレースを引っ張り、２位に50秒以上もの差をつけて学生トップでフィニッシュしました。学生２位は中島橙子選手（早稲田大）、学生３位に阿部優生選手（金沢学院大）と続きました。

男女ともに社会人選手に引けをとらない、レースが繰り広げられました。

競歩種目は、昨年のFISUワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール）でも良い結果を残しました。今後も世界トップレベルの競技会での活躍が期待されます。

男子は原圭佑（京都大）が1時間21分55秒で前回（20kmで実施）に続いて優勝
©フォート・キシモト

1時間41分25秒で女子を制した谷純花選手（金沢学院大）
©フォート・キシモト

向上と進展会報176.indd 6　2026/05/15 12:06

【大会報告】
第29回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会

常任幹事　村上 奈穂

1．大 会 名：第29回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会
2．大会期日：2026年３月15日（日）
3．場　　所：島根県･松江市　まつえレディースハーフマラソンコース
4．エントリー数：58名（完走者数37名）
5．派遣役員（敬称略）：澤木　啓祐、有吉　正博、山下　誠、鶴崎　健一、伊東　輝雄、大朝　太、村上　奈穂、露木　彰映、葉玉　純、成松　泉輝、大西　清司　計11名
7．大会総括

島根県松江市のまつえレディースハーフマラソンコースにて、岸清一賞国際文化観光都市第47回まつえレディースハーフマラソンと併催して、女子ロードシーズンを締めくくる第29回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会が３月15日に開催されました。10時02分に国宝・松江城下大手前を出発した38名の学生女子ランナーが、早春の城下町を一斉に駆け出していきました。

レースは、14km地点までは20人ほどの大きな先頭集団がリードする展開となりました。その後、15km過ぎで山田祐実選手（大阪学院大）が抜け出してフィニッシュまで独走し、１時間11分26秒で優勝しました。続いて、蔦野萌々香選手（大東文化大）が２位でフィニッシュ、弓木咲來選手（立命館大）が３位でフィニッシュしました。

この大会には実業団の選手も参加し、学生にとってはトップアスリートと一緒に競い合える貴重な経験になったことと思います。表彰台を学生が独占し、全体結果でも上位８位までに７名の学生が入賞するなど、トップアスリートにも負けない走りで学生の強さを見せつけてくれました。若手ランナーの世界への登竜門とも称される本大会に出場した選手多くの選手が、世界の舞台に向けて今後も活躍することを期待しております。

最後になりましたが、今大会が無事に開催できましたのは、国際文化観光都市まつえレディースハーフマラソン実行委員会の方々や、一般財団法人島根陸上競技協会、地域の方々など今大会に関わってくださったすべての方からのご支援・ご協力によるものです。この大会がさらに発展し、陸上界の盛り上がりにつながるよう、今後ともよろしくお願いいたします。

表彰を受けた上位３選手

向上と進展会報176.indd　7　　2026/05/15　12:06

【大会報告】
2026日本学生陸上競技個人選手権大会

幹事長　桑原 悠真

1．大 会 名：2026日本学生陸上競技個人選手権大会兼天皇賜盃第95回日本学生陸上競技対校選手権大会10000ｍ

2．大会期日：2026年４月24日（金）～26日（日）

3．場　　所：神奈川県平塚市　レモンガススタジアム平塚
（ハンマー投は東海大学湘南校舎陸上競技場）

4．エントリー数：男子507名、女子537名
（日本ＩＣ10000ｍ 男子：９名、女子30名）

5．大会総括

今年もレモンガススタジアム平塚（男女ハンマー投：東海大学湘南校舎陸上競技場）にて2026日本学生陸上競技個人選手権大会が行われました。また、今大会では暑熱対策として９月に開催予定の第95回日本学生陸上競技対校選手権大会（以下、日本IC）の男女10000ｍを分離開催として実施いたしました。

大会１日目、今大会最初の決勝種目となった女子1500ｍ決勝では、木田美織莉選手（順天堂大）が１年生らしからぬ堂々とした走りを見せ、昨年樹立された大会記録をさらに上回る大会新記録で優勝しました。そして、最終種目として実施した日本ICの男女10000ｍ。日が陰り風もほとんどない絶好のコンディションの中、女子ではサラ・ワンジル選手（大東文化大）が序盤から後続を引き離す軽快な走りを披露し、自身の持つ大会記録を更新して優勝。２位には序盤から単独でサラ選手を追った木村真桜選手（名城大）、３位には熾烈なスパート勝負を制した臼井瑠花選手（筑波大）が入りました。続いて行われた男子では、８人の出場となった中、山口竣平選手（早稲田大）がレース序盤からハイペースで集団を牽引。中盤からはさらにペースアップして後続を突き放し、27分台の好記録で優勝しました。

大会２日目、コロナ禍前の2019年以来となる参加が実現した国外大学生が躍動を見せました。男子100ｍではDENG XINRUI選手（暨南大）、男子110ｍハードルではLIN YI-KAI選手（国立体育大）、女子100ｍハードルではZHANG BO-YA選手（台湾師範大）が優勝し、日本の大学生と熱い戦いを繰り広げました。

大会３日目、男子10000ｍ競歩では吉迫大成選手（東京学芸大）と中島佑之選手（山梨学院大）が序盤からハイペースでレースを牽引し、レース終盤で抜け出した吉迫選手がうれしい全国大会初タイトルを獲得しました。２位に続いた中島選手まで昨年樹立された大会記録を上回る好記録で、近年の男子競歩のレベルの高さを象徴するレースとなりました。

今大会で上位に入賞した選手の一部は、６月に開催される秩父宮賜杯第66回実業団・学生対抗陸上競技大会の学生代表選手として選出され、実業団チームの高い壁に挑戦します。近年、実業団チームに力の差を見せつけられている状況ではありますが、なんとか食らいついてがんばってほしいと思います。

昨年は東京世界選手権、今年はアジア競技大会と、立て続けに日本で大きな国際大会が行われる予定となっています。日本の大学生ナンバーワンを決める本大会から、日本一、アジア一、世界一とさらに大きな舞台で選手たちが活躍してくれることをこれからも期待しております。

7年ぶりに国外大学生の参加が復活。女子100ｍＨは張博雅（台湾・國立體育大、右から2人目）が13秒48（+0.4）でV。ルーキー・井上凪紗（青山学院大、その左）が13秒55で2位に入った

向上と進展会報176.indd 8　2026/05/15 12:06

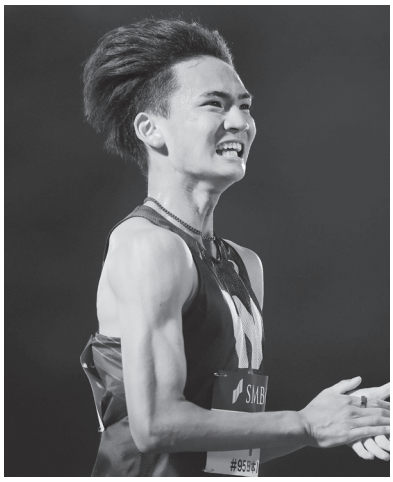
男子砲丸投は渡辺豹冴（新潟医療福祉大）が学生歴代5位の18m12で初制覇

男子10000mWはユニバ代表の吉迫大成（東京学芸大、右）が終盤で抜け出し、日本歴代5位、学生歴代3位の38分07秒06で快勝。2位の中島佑之（山梨学院大）も学生歴代7位の38分28秒07をマークしている

女子1500mは1年生の木田美緒莉（順天堂大）が鋭いスパートで抜け出し、4分19秒14の大会新記録でV

男子三段跳は3年ぶり自己新の16m39（－0.9）をジャンプした宮尾真仁（東洋大）が優勝を果たす

2m19で男子走高跳3連覇を飾った原口颯太（順天堂大）



暑熱対策のため分離開催となった日本インカレの10000mは、男子は山口竣平（早稲田大）が自身初の27分台となる27分59秒47で快勝

日本インカレ女子10000mはサラ・ワンジル（大東文化大、中央）が31分23秒69の大会新記録で自身3度目の優勝。ルーキー・木村真桜（名城大、左）が32 分31秒56で2位、臼井瑠花（筑波大）が3位だった

向上と進展会報176.indd 9　2026/05/15 12:06

日本学生個人選手権

4月24日～26日　神奈川・平塚，ハンマー投のみ東海大

男　子

●100m(+1.2)・25日
①鄧 信 鋭（中国）　10.25
②大石凌功（東洋大4）　10.31
③鈴木慎吾（東海大3）　10.40
④林　明良（慶應義塾大4）　10.41
⑤石川智基（立命館大3）　10.49
⑥アブラハム光オシナチ（関西大2）　10.52
西岡尚輝（筑波大2）　棄権
増山煌冨（関西学院大2）　棄権

●200m(+2.4)・26日
①濱椋太郎（法政大2）　20.56
②舟木宝月（大東文化大4）　20.71
③山本嶺心（東洋大4）　20.91
④田原歩睦（法政大4）　20.99
⑤鈴木慎吾（東海大3）　21.01
⑥庭山晴希（東洋大2）　21.30
⑦植松康太（中央大3）　27.79
清水　壮（日本大4）　棄権

●400m・25日
①山﨑琉惟（東洋大4）　46.63
②入月誠/介（山梨学院大3）　46.75
③藤原将哉（環太平洋大3）　47.01
④服部　悠（日本体育大4）　47.09
⑤呉 政 諺（台湾）　47.27
⑥小幡丈士（関西学院大3）　47.31
⑦小島　譲（中京大1）　47.51
⑧大石亮太（東洋大2）　48.35

●800m・26日
①萬野七樹（関西大3）　1.48.70
②盛耕太朗（東海学園大4）　1.49.25
③國森郁光（山口大4）　1.49.44
④水野瑛人（中京大3）　1.49.73
⑤森玉鳳雅（関西大4）　1.49.92
⑥木佐亮太（筑波大6）　1.50.56
⑦神林　輝（法政大4）　1.50.83
⑧小瀬堅大（順天堂大4）　1.55.36

●1500m・24日
①森玉鳳雅（関西大4）　3.44.85
②藤井奏汰（広島経済大4）　3.46.16
③渡邊優典（東北大4）　3.46.32
④川口峻太朗（順天堂大2）　3.46.43
⑤馬場ｱﾝｼﾞｪﾛ光（東洋大3）　3.48.00
⑥田村幸太（創価大1）　3.49.60
⑦野川元希（明治大3）　3.50.02
⑧高坂光希（札幌学院大4）　3.51.18

●110mH(-0.1)・25日
①林 翊 凱（台湾）　13.64
②謝 元 愷（台湾）　13.72
③宮本皓寿（順天堂大3）　13.93
④浅井惺流（法政大2）　13.93
⑤田中洸希（関西学院大4）　13.95
⑥打田快生（順天堂大4）　14.01
⑦小島慧一郎（順天堂大3）　14.01
⑧小池　綾（法政大4）　14.32

●400mH・26日
①柳田聖人（東洋大4）　49.85
②菊田響生（法政大2）　50.03
③谷生悠真（関西学院大4）　50.54
④三柳遥暉（同志社大4）　50.58
⑤今西亮太（順天堂大4）　50.71
⑥平田　和（早稲田大4）　50.83
⑦陳 建 榮（台湾）　51.12
⑧德田　隼（法政大3）　51.90

●3000mＳＣ・25日
①キプゲノ・ケネス（札幌学院大2）　8.50.63
②古賀想太（筑波大1）　8.51.40
③前田結人（順天堂大1）　8.54.48
④辻　昂介（順天堂大3）　9.01.88

●10000mW・26日
①吉迫大成（東京学芸大4）　38.07.06
②中島佑之（山梨学院大4）　38.28.07
以上大会新
③逢坂草太朗（東洋大3）　39.18.36
④金子　陸（国士舘大4）　40.07.16
⑤長田隼人（明治大4）　40.09.82
⑥玉春汰造（新潟食料農業大2）　40.15.97
⑦原　勇輔（山梨学院大3）　40.23.92
⑧中台琥珀（順天堂大3）　40.24.00

●走高跳・26日
①原口颯太（順天堂大4）　2.19
②畝地雄大（順天堂大1）　2.16
③福士　湊（東海大3）　2.13
④佐藤卓巳（順天堂大3）　2.13
⑤中村佳吾（筑波大1）　2.10
⑥須﨑遥也（慶應義塾大4）　2.10
〃山中健太（東海大4）　2.10
⑧前川鎮秀（東海大4）　2.05
〃張 騰 仁（台湾）　2.05

●棒高跳・25日
①原口篤志（大阪経済大M1）　5.45
②鈴木悠聖（育英大2）　5.40
③渡邊瑛斗（筑波大4）　5.30
〃北田オスカー誠治郎琉偉（日本体育大4）　5.30
⑤井上直哉（日本体育大1）　5.30
⑥吉田陸哉（関西大4）　5.20
⑦長野董也（大阪教育大2）　5.10
⑧谷口海斗（中京大2）　5.10

●走幅跳・24日
①関根拓真（国際武道大4）　7.92(+2.0)
②大西勧也（天理大3）　7.70(+2.3)
③倉　凌雅（びわこ成蹊ｽﾎﾟｰﾂ大M1）　7.56(+1.0)
④高橋朝陽（東海大4）　7.54(+1.2)
⑤三浦颯太（東海大北海道3）　7.53(+2.3)
⑥元木涼介（日本大3）　7.52(+1.0)
⑦川上亮磨（日本大4）　7.49(+1.9)
⑧大森恵偉音（順天堂大1）　7.47(+1.5)

●三段跳・25日
①宮尾真仁（東洋大4）　16.39(−0.9)
②金井晃希（順天堂大4）　15.64(+2.2)
③中田凱斗（同志社大3）　15.51(+0.4)
④末藤唯人（関西福祉大M1）　15.47(+0.3)
⑤播田和志（中京大M1）　15.32(+0.6)
⑥宮﨑　光（山梨学院大3）　15.31(+1.5)
⑦吉田　輝（日本体育大3）　15.18(+2.1)
⑧織田誠也（立命館大4）　15.17(+3.6)

●砲丸投・24日
①渡辺豹冴（新潟医療福祉大4）　18.12
②山田暉斗（法政大4）　17.50
③泊　瑶平（環太平洋大4）　17.47
④アツオビン・ジェイソン（福岡大M２）　17.15
⑤桑添喬偉（日本大3）　16.22
⑥木幡駿平（東海大4）　16.17
⑦照屋瑠亜（国士舘大4）　16.02
⑧濵田玲将（鹿屋体育大4）　15.59

●円盤投・26日
①山口翔輝夜（筑波大4）　51.66
②阪上弘貴（九州共立大3）　50.46
③竹内郁登（福岡大4）　50.28
④田窪一翔（日本大2）　49.13
⑤亀井　翔（東海大3）　48.87
⑥岩瀬一輝（中京大2）　48.45
⑦田中愛也（国士舘大4）　47.99
⑧松田流輝（中京大3）　47.52

●ハンマー投・25日
①坂梨航琉（環太平洋大M2）　66.99
②秋山玲二郎（四国学院大4）　66.74
③アツオビン・アンドリュウ（九州共立大2）　64.53
④髙橋慶太（九州共立大2）　64.18
⑤山口翔輝夜（筑波大4）　63.98
⑥浅利磨海（流通経済大3）　63.12
⑦古谷聖人（東海大3）　61.48
⑧吉田　匠（四国大M1）　60.08

●やり投・24日
①鈴木　凜（九州共立大M2）　77.12
②朝田康聖（大阪教育大M2）　72.24
③鈴木凰士朗（中京大2）　71.58
④大西航生（順天堂大4）　71.30
⑤渡邊　宙（九州共立大3）　70.84
⑥坂田　陽（九州共立大4）　69.73
⑦下村知太郎（東京学芸大4）　68.62
⑧花田李樹（中京大M2）　67.22

女　子

●100m(-1.8)・25日
①藏重みう（甲南大4）　11.75
②永石小雪（立命館大M1）　11.76
③杉本心結（青山学院大2）　11.92
④佐藤葵唯（青山学院大4）　11.94
⑤税田ｼｪﾆﾌｧｰ璃美（甲南大3）　11.96
⑥山形愛羽（福岡大3）　11.99
⑦柴藤　凜（福岡大3）　12.16
小針陽葉（駿河台大2）　棄権

●200m(+2.7)・26日
①髙橋亜珠（筑波大4）　23.56
②佐藤葵唯（青山学院大4）　23.74
③山形愛羽（福岡大3）　23.95
④柴藤　凜（福岡大3）　24.15
⑤井上瑞葵（青山学院大3）　24.15
⑥吉永葉月（中央大4）　24.22
⑦前田さくら（福岡大1）　24.26
⑧宮阪優希（東京女子体育大2）　24.37

●400m・25日
①児島柚月（立命館大4）　54.99
②伊藤真優（立命館大4）　55.31
③江原美月優（福岡大3）　55.34
④福井彩乃（立命館大3）　55.41
⑤木下晏里（早稲田大2）　56.28
⑥齋藤朱里（立命館大2）　56.54
⑦吉野綾香（大阪成蹊大2）　56.60
⑧アケンタ・グロリア（国士舘大4）　57.37

●800m・26日
①勝くるみ（筑波大4）　2.07.62
②森　千莉（至学館大3）　2.08.29
③木田美緒莉（順天堂大1）　2.08.53
④亀井咲里（京都教育大3）　2.08.54
⑤松尾愛利紗（京都教育大3）　2.08.97
⑥長島結衣（順天堂大3）　2.10.60
⑦平野里歩（環太平洋大3）　2.11.29
⑧尾崎真衣（京都教育大4）　2.14.67

●1500m・24日
①木田美緒莉（順天堂大1）　4.19.14
=大会新
②尾崎真衣（京都教育大4）　4.20.43
③佐々木葉音（筑波大1）　4.20.62
④田中柚良（筑波大3）　4.21.07
⑤相場茉奈（大東文化大4）　4.21.46
⑥林　彩夢（日本福祉大2）　4.23.00
⑦市岡妃彩良（関西大2）　4.24.36
⑧亀井咲里（京都教育大3）　4.24.92

●5000m・26日
①本間　香（城西大2）　16.06.95
②太田咲雪（立命館大4）　16.10.47
③真柴愛里（名城大1）　16.15.67
④佐藤彩乃（玉川大4）　16.17.86
⑤瀬木彩花（名城大4）　16.18.65
⑥福山　光（福岡大3）　16.19.15
⑦山田祐実（大阪学院大2）　16.19.26
⑧山田未唯（名城大4）　16.19.54

●100mH(+0.4)・25日
①張 博 雅（台湾）　13.48
②井上凪紗（青山学院大1）　13.55
③仮屋愛優（日本体育大2）　13.66
④福井有香（立命館大3）　13.67
⑤松田晏奈（早稲田大2）　13.67
⑥星場麗羽（天理大M1）　13.89
⑦加藤美都（青山学院大1）　13.93
⑧森脇叶美（園田学園大4）　13.96

●400mH・26日
①鍾 欣 儒（台湾）　57.46
②平木　陽（大阪成蹊大4）　58.36
③和佐田真広（中京大4）　58.85
④原田ｴﾐﾘｰ（筑波大3）　59.15
⑤夏目紗彩（日本体育大4）　59.27
⑥野間　葵（立命館大4）　59.58
⑦石川優空（京都教育大3）　60.29
⑧吉野綾香（大阪成蹊大2）　61.80

●3000mＳＣ・25日
①近藤希美（名城大3）　9.59.67
②大西由菜（城西大2）　10.10.23
③鈴木美海（筑波大3）　10.24.62
④道田衣舞（東京女子体育大4）　10.35.33
⑤黒木優依（園田学園大2）　10.38.06
⑥冨田紗帆（順天堂大2）　10.40.92
⑦前田二千翔（大阪芸術大1）　10.52.57
⑧嵐　夢乃（日本ウェルネス大1）　10.58.45

●10000mW・25日
①石田さつき（武庫川女子大4）　46.32.52
②谷　純花（金沢学院大4）　46.37.55
③皆口万笑（金沢学院大2）　46.43.21
④阿部優生（金沢学院大2）　46.56.68
⑤庄子理菜（中京大3）　47.25.77
⑥宇佐見和奏（金沢学院大3）　47.37.86
⑦大賀羽和（中京大3）　48.02.44
⑧寺本瑛美（名古屋大2）　48.04.00

●走高跳・25日
①矢野夏希（早稲田大4）　1.78
②森﨑優希（日本女子体育大3）　1.75
〃佐藤安里紗（四国大4）　1.75
④江角菜子（福岡大2）　1.70
〃苅谷真奈（大阪教育大4）　1.70
〃野田瑚羽（京都教育大2）　1.70
⑦小林美月（筑波大M1）　1.65
〃那須美咲（環太平洋大4）　1.65
〃前西咲良（筑波大3）　1.65
〃佐野奏歩（大東文化大2）　1.65

●棒高跳・24日
①村田蒼空（筑波大4）　4.10
②岡田莉歩（日本体育大3）　4.00
③渡邊紗莱（日本女子体育大1）　3.90
④志賀日向子（東京女子体育大2）　3.70
⑤齋藤珠理（中央大M2）　3.70
⑥海老原有緯子（日本体育大3）　3.50
〃松井愛果（大阪教育大2）　3.50
〃上山貴美恵（筑波大1）　3.50

●走幅跳・24日
①宮本里乃亜（日本体育大3）　6.14(+0.2)
②前西咲良（筑波大3）　6.13(−0.1)
③馬場彩香（埼玉大M1）　6.01(−0.3)
④近藤いおん（日本大2）　6.01(−0.7)
⑤中尾優花（福岡大M1）　5.95(−0.7)
⑥橋本詩音（筑波大2）　5.95(−0.1)
⑦成澤柚日（中央大1）　5.90(−0.4)
⑧菅野穂乃（日本体育大1）　5.90(+0.3)

●三段跳・26日
①菅野穂乃（日本体育大1）　12.87(+1.3)
②佐々木千翔（青山学院大4）　12.75(+3.2)
③菅野未久瑠（武庫川女子大4）　12.73(+1.7)
④安井咲貴（大阪経済大3）　12.68(+1.7)
⑤大前友乃（武庫川女子大4）　12.63(+0.8)
⑥吉森あり（関西学院大3）　12.58(+3.3)
⑦廣瀬桃奈（園田学園大4）　12.56(+1.6)
⑧田口陽菜（駿河台大M2）　12.34(+0.7)

●砲丸投・24日
①村瀬にこ（九州共立大4）　15.29
②坂ちはる（大阪体育大2）　15.23
③奥山琴未（岡山商科大4）　15.23
④吉沢花菜（日本体育大4）　14.86
⑤近藤　湊（筑波大2）　14.51
⑥中原　鈴（大阪体育大4）　14.17
⑦米川佳里奈（筑波大1）　14.14
⑧野本菜々（天理大2）　13.46

●円盤投・26日
①近田ココ（東京女子体育大1）　49.76
②友利晟弓（九州共立大4）　48.82
③藤田はづき（四国大M2）　48.66
④外間結希乃（国士舘大4）　48.54
⑤川村羽海（筑波大2）　47.03
⑥桑島弥々（九州共立大4）　46.89
⑦益井莉桜（筑波大1）　46.53
⑧四役ひかり（順天堂大D3）　43.50

●ハンマー投・25日
①嶋本美海（九州共立大3）　60.20
②工藤実幸乃（九州共立大2）　58.96
③川島　空（大阪体育大4）　57.90
④三村啓恵（立命館大4）　57.58
⑤松尾菜那（新潟医療福祉大3）　56.89
⑥有汲颯妃（筑波大M1）　56.35
⑦中嶋日向子（中京大M2）　56.13
⑧澤向美樹（九州共立大2）　55.65

●やり投・24日
①辻萌々子（九州共立大M1）　58.27
②曽野　雅（国士舘大3）　55.47
③櫻井希美（中京大3）　54.13
④篠田佳奈（京都大M2）　53.15
⑤鈴木彩夏（大阪体育大1）　52.29
⑥黒川愛星（九州共立大1）　52.10
⑦加藤りの（武庫川女子大M2）　51.93
⑧堤　陽菜（国士舘大4）　51.17

向上と進展会報176.indd　10　2026/05/15　12:06

【海外派遣】
2026世界大学クロスカントリー選手権大会(イタリア/カッシーノ)
(2026 World University Cross Country Championship in Italy, Cassino)

幹事長　桑原 悠真

1．大会期間：2026年３月14日（土）～15日（日）
2．派遣期間：2026年３月10日（火）～18日（水）
3．開 催 地：イタリア／カッシーノ
4．派遣種目：男子10km、女子10km
5．派遣選手：男子３名、女子３名
【男子】　野中恒亨（國學院大）
　　藤田大智（中央大）
　　折田壮太（青山学院大）
【女子】　村山愛美沙（東北福祉大）
　　小川陽香（立教大）
　　橋本和叶（名城大）

6．派遣スタッフ
監　督：米田勝朗（日本学連強化委員／名城大）
コーチ：前田康弘（日本学連強化委員／國學院大）
トレーナー：長谷川美由紀
　　（針院さとうTSSケアルーム津島）
マネージャー：桑原悠真（日本学連幹事長）

7．大会の概要

①派遣の位置づけについて

本大会はFISUが開催するワールドユニバーシティチャンピオンシップにおけるクロスカントリーの選手権であり、２年に１度、FISUワールドユニバーシティゲームズが開催されない年に開催されている。日本学連では、本大会を長距離種目の強化事業として位置づけており、今回で２大会連続７回目の参加となった。

②選手の派遣とレギュレーションについて

派遣選手選考では、選考要項をもとに男女４名ずつを選出した。しかし、大会直前のコンディション不良により、男女それぞれ１名が派遣を辞退することとなり、結果的に男女３名ずつの派遣となった。前回大会から、Short Race（2km）や男女混合リレーといった種目が追加されたが、あくまで長距離種目の強化事業ということで、今回も男女のLong Race（10km）に選手を派遣した。

また、種目の追加に伴い、前回大会から国別団体戦のレギュレーションも改定されており、Long Raceだけでなく Short Raceおよび男女混合リレーの成績を合わせた総合成績で争う形となっているため、国別団体戦に参加することはできなかった。ただし、（詳細は10.にて後述するが）次回大会からクロスカントリー種目は冬のワールドユニバーシティゲームズに組み込まれることが発表されたため、今後は夏季のワールドユニバーシティゲームズ同様に、JOCの派遣枠に応じた人数の派遣となっていく可能性が高い。

③滞在地までの移動と滞在先の環境について

選手団は３月10日（火）の22時頃に羽田空港を出発し、約13時間30分のフライトで経由地のイスタンブールへ向かった。直前から中東の情勢が心配されるとともに、着陸の際には濃霧によって一度ゴーアラウンドを余儀なくされるプチハプニングも発生したが、ほぼ時間通りの現地時間５時30分頃にイスタンブール空港へ到着。イスタンブール空港からナポリ空港へ向かい、現地時間８時頃にナポリ空港へ到着した。ナポリ空港では大会組織委員会の送迎車が用意され、会場のカッシーノへと向かった。

会場となったカッシーノは、イタリア中部のラツィオ州南部にある人口４万人ほどの小さな都市であり、第二次世界大戦中のモンテ・カッシーノの戦いの舞台となったモンテ・カッシーノ修道院が町のシンボルとなっている田舎町である。2016年にもこの大会を開催しており、その2016年大会同様にカッシーノ大学横の草地を利用したコースが設定された。

滞在先のホテルはカッシーノの市街地から少し外れた場所に位置し、大会会場からは２kmほどの場所

イタリアで貴重な世界の経験を積んだ選手たち

向上と進展会報176.indd 11　2026/05/15 12:06

にあった。1km圏内にスーパーやホームセンターもあったため、ホテルでの滞在において大きな不自由を感じることはなかった。しかし、ホテル周辺は非常に車の通りが多く歩道もない道路であったため、上記のお店に買い出しへ向かう際には少し注意が必要であった。食事に関しては3食ともビュッフェ形式であったものの、朝、昼、夜でそれぞれメニューがほとんど固定されていたため、選手たちは約1週間の滞在の中で味の変化を加えられるように、各自で用意した食品などを加えながら食事を摂っていた。メニューはマカロニなどのショートパスタやトマトを基調とした料理が多く、我々が期待していたロングパスタは一度も提供されなかったが、どれも美味しくいただくことができた。

今回の滞在の中で一番の課題となったのが洗濯であった。ホテルやホテル周辺にはコインランドリーがなく、洗濯するためにはタクシーで10分ほどの市街地へ行く必要があった。しかし、タクシーの台数自体が少なく、配車アプリでもなかなか手配できなかったため、行きはホテルに呼んでもらい、帰りは行きのタクシーに1時間後に再度来てほしいと伝えることで、なんとか往復分の配車をすることができた。そのため、およそ6日間の滞在の中で3回しか洗濯へ行くことはできなかったが、その3回とも同じタクシー会社が対応してくれたことで比較的スムーズに洗濯へ行くことができた。今後も今回のような田舎町が開催地となった場合には、同じ課題に直面する可能性は考えておかなければならない。

④調整とコンディショニングについて

ホテルに到着後、スタッフ陣でホテル周辺を散策し、練習できる場所の確認を行った。上述の通り、ホテル付近は車通りの多い道路であったため、少し離れた農道のような道で練習を行った。

各々の練習メニューに関しては、出国前にそれぞれの指導者と計画を立てておくように指示してあった。水曜日昼の到着後～土曜日のレース当日までおよそ2日半の調整期間であった。到着した日の夕方は各自で軽くjogを行った。2日目と3日目は朝練習と午前練習を中心に行い、jogや刺激を入れて各自でコンディションを整えた。ホテルの近くに競技場がないことは出国前に共有していたため、刺激を行う選手はロードで1kmを計測して刺激を行った。また、2日目の夕方には大会会場へ行ってコースの下見を行い、レースのイメージを膨らませた。

出国前に長谷川トレーナーにコンディションチェックを行っていただき、また現地でもトレーナールームを設置してコンディションチェックやケアを行った。橋本選手は出国前に若干の故障があり、現地入り後も米田監督、長谷川トレーナーとともに回復に努めたが、今回は欠場する判断となった。慣れない環境でなかなか落ち着いて寝付けない選手もいたが、ホテルの衛生面などには問題なく、大会当日まで大きく体調を崩さずにレースを迎えることができた。

⑤大会のコース設定について

コースは2016年大会と同じく、カッシーノ大学横にある草地を舞台に設定された。草地の柔らかい地面と大きな高低差により、持久力と脚筋力が求められるとてもタフなコースであった。Long Raceのコースは周回コースとなっており、1kmの周回コースを2周後、1.6kmの周回コースを5周するトータル10kmのコース設定となっていた。急激な上り坂や、下りながらのコーナーなどが徐々に体力を消耗し、周回を重ねるごとに負担が蓄積するコース設定であった。

8．大会結果

先に行われた女子のレースでは、村山選手と小川選手ともに序盤は先頭集団でレースを進めた。徐々に消耗が激しくなるレース中盤からトルコの選手が抜け出す展開となったが、村山選手が2位集団に食らいつき、メダル争いのままレースは終盤に入った。終盤では、村山選手とイタリアの選手が2位集団から抜け出して先頭を走るトルコの選手をとらえ、優勝争いは3人に絞られた。その後、イタリアの選手がロングスパートを仕掛けて抜け出し、村山選手はトルコの選手と熾烈な銀メダル争いとなったが、わずかに敗れて銅メダル。しかしながら、日本女子としては前回大会の小川選手に続く2大会連続のメダル獲得であり、このタフなコースで最後まで粘り切った素晴らしいレースであった。小川選手は9位であった。

続いて行われた男子のレースでは、ウガンダの選手たちがレースを引っ張り、日本の3選手はその後ろで様子を見る序盤となった。中盤からウガンダ勢のペースアップによって消耗戦となっていく中、野中選手は先頭集団から5秒ほどの位置で食らいつきレースは終盤を迎えた。逃げるウガンダの選手2名に対して野中選手が必死に差を詰めようとするもなかなか差が縮まらず、さらに先頭の選手がスパートを仕掛けた。野中選手はこのスパートに対応できなかったもう1名のウガンダ選手との銀メダル争いとなり、最後は意地のス

向上と進展会報176.indd 12　2026/05/15 12:06

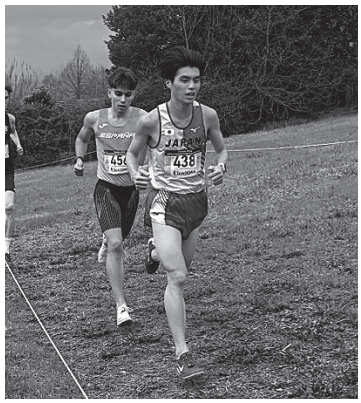
日本男子14年ぶりの銀メダルを獲得した野中恒亨（國學院大）

女子も村山愛美沙（東北福祉大）が銀メダルを手にした

パートで銀メダルを獲得した。日本男子としては14年ぶりの個人でのメダル獲得であり、大きな価値のある結果となった。折田選手は９位、藤田選手は21位であった。

日本人選手 成績		
男子10km		
氏名（所属）	順位	記録
野中　恒亨（國學院大）	2位	30分36秒
折田　壮太（青山学院大）	9位	31分16秒
藤田　大智（中央大）	21位	32分02秒
女子10km		
氏名（所属）	順位	記録
村山　愛美沙（東北福祉大）	3位	35分41秒
小川　陽香（立教大）	9位	36分44秒
橋本　和叶（名城大）	—	—

9位と奮闘した折田壮太（青山学院大）



21位だった藤田大智（中央大）

入賞にあと一歩の9位だった
小川陽香（立教大）

９．ローマ研修

今回の派遣では、陸上競技の強化だけでなく、一大学生としての見識を深める機会として、大会終了後にローマへ移動し、研修期間を設けた。帰国までの１日半ほどの中で、コロッセオやバチカン市国などを巡り、古代ローマの歴史や宗教信仰の文化などを学び、非常に有意義な時間となった。

10. 大会の移行

レース前日に行われたテクニカルミーティングの中で、次回のクロスカントリー選手権はワールドユニバーシティチャンピオンシップ種目から外れ、2027年の冬季ワールドユニバーシティゲームズにて実施されることが発表された。五輪のマラソン競技の冬季移行も議論されている中、それに先立ってFISUがクロスカントリーランニングを冬季種目に移行した形となる。本件については帰国後にJOCにも報告を行ったが、今後はワールドユニバーシティゲームズ内の１競技ということで、夏季大会と同様に、他競技との選手派遣枠の兼ね合いや派遣スタッフ、渡航日程などにおいてJOC主導での派遣となっていく可能性が高い。現時点で派遣枠に関する情報は得られていないが、国別団体戦のレギュレーション変更への対応なども含め、派遣枠に応じて柔軟な派遣が求められる。

11. WhatsAppを用いた情報共有

大会期間中のさまざまな情報（選手団輸送バスの時間や式典の時間など）はすべてメッセージングアプリ「WhatsApp」を用いて各国代表団に共有されていた。WhatsAppは日本における「LINE」のようなアプリとして、ヨーロッパを中心に約20億人（LINEの約20倍）に普及しており、大会にエントリーした際の責任者電話番号を使ってWhatsAppのグループ機能に追加されていたようである。しかしながら、日本選手団はWhatsAppを使用していなかったため、電話番号だけ追加されても当然グループに参加することができておらず、大会期間中の情報をほとんど得ることができて

向上と進展会報176.indd 13　2026/05/15 12:06

いなかった。本件について大会責任者に尋ねたところ、「WhatsAppを使用していないなんて思わなかった」などと開き直られた説明を受け、相手にしてもらえなかった。

我々も日本インカレ等の大会運営において、出場校を対象としたオープンチャットを活用しているように、国際大会においてもメッセージングアプリを用いた情報共有が今後主流になっていく可能性があるため、これからはそれを頭に入れておく必要があると感じた。

12. まとめ

今回の遠征では、男女それぞれでメダルを獲得し、日本の学生長距離界が引き続き世界でも通用することを証明することができた。また、今回思うような結果を残せなかった選手も、今回の経験を糧にして、さらなる競技力向上へつなげてくれることで、本遠征に大きな意味があると確信している。これから学生陸上界さらには日本の陸上界を引っ張っていくであろう選手たちにとって、このような世界の舞台での経験は間違いなく貴重な機会である。そして、これまでこの大会に出場した選手の中には、何人も将来的にシニアの日の丸をつけて世界で戦っている選手たちがいる。今回出場した選手たちもこの経験を活かし、さらに大きな舞台で活躍してくれることを期待したい。

以下、選手たちのコメントを紹介して、本大会の報告とする。

大会後はローマで研修の機会が設けられた

コメント

野中恒亨（國學院大）

今回の世界大学クロカンでは、２度目の海外レースとなりました。前回の海外レースでは飲み水が身体に合わなかったこと、海外選手に対して怖じ気づいてしまったことで、自分の力を発揮することができず、うまく走ることができませんでした。そのため、まずは日本から水と保存食品を持っていき、普段通りの調整ができるようにしました。現地で飲む水も軟水のみにし、胃腸に負担がかからないよう気を付けました。練習では競技場が使えなかったり、道路が危険で走る場所が少なかったりと、思うように走ることができませんでしたが、スタッフの方々が場所を見つけてくれたお陰で特にストレスなく調整を行うことができたと思います。レース当日もウォーミングアップがしやすいようにサポートしていただき、海外選手に惑わされることなく日本と同じ準備をすることができました。

レース自体は楽しんで、海外選手と競いながら確実に前を捕まえられる位置で進め、最後のところで１つ順位を上げられたことは、今後の駅伝やトラックシーズンでも自分の力を見極め、最後に詰めるということにつながっていくと考えました。

現地で海外選手と交流したことで、普段どんなことを考えて練習しているのか、調整練習は何をしているのかなどを学ぶことができました。

またその後、知見を広げるためにローマに行ったことで、教科書に載っているような遺産を目の当たりにし、自分自身の知識とイメージを合致させることができただけでなく、普段考えることのないような歴史について考える機会となり、自分自身の競技者としての考え方だけでなく、人として成長させることができたのではないかと感じました。その一方で、現地の方との交流やインタビューといったものをよりスムーズにするために、言語を学んでおくことや、スピード値などを上げていかなければ、これから先、世界と戦うことができないとも感じ、これからの課題として残した部分になったと考えています。

藤田大智（中央大）

今回は初めて日本代表に選んで頂き、初めての海外経験となりました。長いフライトや慣れない場所での調整、食事など何もかも初めてでとても戸惑い、その中で結果を出すことの難しさを学ぶことができました。

レースの結果は求めていたものではなく悔しい結果とはなりましたが、今後の経験や学びという意味ではこれ以上ないものを得ることができたと思います。また、海外のレースは日本のレースと違ってペースのアップダウンが激しく、今年はグランプリレースに多く出る予定となっている分、それをこの時期に経験できたことは今シーズンの試合に向けてとても良い流れかなと思いました。

海外で学んだことやうまくいかなかったことをしっかりと日本に、そしてチームに持ち帰って、今度は自分が日本代表として海外のレースに出たということをチームにとってもプラスだったなと言えるように、この経験を生かしてこれからもがんばっていきます。

折田壮太（青山学院大）

私自身、今回で３回目となる海外遠征にあたり、結果を出すという覚悟を持ってイタリアへ向かいました。日本にはない傾斜や地面の状態を含むハードなクロスカントリーコースは、単なるトラックやロードでの持ちタイムではなく、強さそのものが問われる舞台だったと感じます。その中で各国の代表選手とともに戦えたことは、自分にとって非常に大きな経験となりました。

向上と進展会報176.indd 14　2026/05/15 12:06

一方で、目標としていた８位入賞には届かず、レース内容を細かく振り返ると、対応力や判断力、走りの精度など、まだまだ多くの課題が残っていることも明確になりました。それでも今回のレースを通して、何よりも強く感じたのは、もう一度日の丸を背負って走りたいという思いです。

トラック、駅伝、クロスカントリーと競技の形は違っても、走ることを通して人とつながり、その輪が広がっていくことは、陸上人生だけでなく人生そのものにおいて大きな財産になると感じています。本当に世界で勝負できるのかどうかは、スタートラインに立ち、走り出してみなければわからない。その現実を、今回改めて実感しました。そして視野を外に広げた時、自分の小ささにも気づくとともに、想像を超える強い選手たちが数多く存在していることも改めて実感しました。

そうした環境の中で自分自身を客観的に見つめ直すことができたのは大きな収穫であり、改めて自分がやりたいことや、かなえたい夢を明確にすることができました。この経験で得た悔しさや気づきを、課題克服への力に変え、今後の競技人生にしっかりと生かしていきたいと思います。

また、ローマでの研修も、私にとって非常に大きな意味を持つものでした。教会や歴史的な建造物は釘付けになるほどの眺めでした。ただ、それ以上に近くのスーパーに足を運ぶこと、街を歩くことだけでさえ、日本とは異なる文化や価値観、景色に触れることができるということ。それこそが自分自身の世界観が大きく広がっていく一つの理由だったと思います。同時に、ここに至るまで陸上競技に向き合い、挫けずに続けてきたことが結果とは別の形で報われたと思いました。

これから先も、思うようにいかないことや、苦しい局面、壁にぶつかることは必ずあると思います。しかし、それらを乗り越えた先に、今回のようなかけがえのない経験が待っていると信じています。そのような環境に身を置けていることに心から感謝し、日々の積み重ねを大切にしていきたいです。

最後になりますが、この貴重な機会を与えてくださった日本学生陸上競技連合の皆様に、心より感謝申し上げます。

村山愛美沙（東北福祉大）

今回、初めての海外遠征となり、わからないことも多く、生活の難しさや食事、練習環境など今までに経験したことがないことがほとんどで、不安もある中ではありました。しかし、その中でも試行錯誤しながら自分なりに最善を尽くして準備し、スタートに立つことができました。レース前までは他の選手やコースを見た時にとてもきつくタフなコースだと言う印象を持ってしまい、周りに比べて気持ちで引いていたところもありましたが、積極的に前の方でレースを進めることもできました。レース自体が思ったよりもスローペースで入ったため、気持ちに余裕を持ち、周りの状況をしっかり確認しながら自分のリズムで冷静になって走ることができました。

今回のレースは自分の中で楽するところとがんばるところの区別をつけながら走り、それがうまくハマったことで最後まで大きく崩れることなく走れたと思います。ですが、私の課題でもあるラストの切り替えが他国の選手に比べて弱い部分でもあるということを再確認できましたし、今回こうして世界の舞台で走れたことは、今後世界で戦うにあたりきっかけとなるレースになったと思います。自分にとってとても貴重な経験になりました。

海外の選手の筋力にも圧倒され、筋力の面でも自分はまだまだだと感じる部分もありました。今回の経験を通して、トラックシーズンから積極的なレースを行い、世界を意識しながら日々トレーニングに励んでいきます。

小川陽香（立教大）

はじめに、今回は世界の選手と戦うという貴重な経験をする機会をいただき、本当にありがとうございました。レースの結果としてはまったく納得のいくものではなく、応援に応える走りができず申し訳ない気持ちでいっぱいです。年末からケガや体調不良を繰り返し、思うように練習が積めていない中でのレースであったことや、自分の不整地や坂への耐性のなさが今回の敗因の一つであると感じます。

調整については、16時間超えの移動で足の浮腫や疲労がかなりあり、２日間ほどは軽いジョグでほぐす程度の練習にしました。前日も刺激は入れず、ジョグと長めの流しで調整することで、疲労を抜いた状態で臨むことを一番に考えて行いました。飛行機内では頻繁に立ち上がってストレッチをするようにしましたが、今回はいつもよりも浮腫がひどいように感じました。その原因はまだ見つけ出せていないので、考えて今後に生かしていきたいと思います。

今回のレースで改めて海外の選手達との差を実感しました。また、食事面でも朝食は満足のいくものでしたが、昼食、夕食は質素なものが多く、バランス良く食べるのに苦労しました。洗濯もランドリーまで距離があり、２日に１回ほどしか回せないという海外レースならではの経験もしました。遠いところまでわざわざ洗濯をしに行ってくださったスタッフの方々には感謝してもしきれません。

今後の課題としましては、クロカンで走る上ではやはり不整地や坂への耐性をつけることが一番大切だと考えます。普段トラックや平坦なロードを走ることが多い分、どうしてもクロカンに触れる機会が減ってしまうため、積極的に取り入れるようにしていきたいと思います。そこでつけた力はトラックでも必ずいきてくると思うので、新しいことにも積極的に挑戦していきたいと思います。

今年は学生ラストイヤーになるので、今回させていただいた貴重な経験を生かして、一つでも多くのレースを納得のいくものにできるようさらに精進してまいります。

最後になりますが、今大会参加に際しご尽力いただきました全ての方々に感謝申し上げます。今後ともご声援のほどよろしくお願いいたします。

橋本和叶（名城大）

今回の遠征は、ケガをしてしまい、選手の方々のサポートとして参加させていただきました。普段とは違う視点からレースを見ることができて良かったです。レースを間近で応援して、一緒に走って戦いたかった気持ちが一番強く、悔しさがありました。しかし、粘り強く他国の選手と走る姿を見てとてもかっこよく思い、刺激をもらうことができました。

食事面では、海外は日本と違ってお米がなく、コンディションを整えるのに苦労しましたが、日本からお米を持参しレースが近くなってきたら食べ始め、いつものレースと同じルーティーンを行うことができました。チームの方々は、一番年下の私にも優しく接してくださり、毎日充実した時間を過ごすことができました。次は、私が上級生になってから選んでいただいた時に、今回受けた優しさを後輩に受け継いでいけるようになりたいと感じました。

今回の遠征を通して、いつもとは違う視点から海外レースを見ることができ、日本ではできない体験をすることができました。

向上と進展会報176.indd 15 2026/05/15 12:06

【会議報告】
第77回理事会

1．開催された日時：令和８年３月７日（土）
12：50～15：03
2．開催場所：TKP新宿カンファレンスセンター
＠ホール5E
3．理事総数及び定足数：現在21名、定足数12名
4．出席理事数：15名
（出席理事）：有吉　正博、岡崎　朋美、小倉　幸雄、片平　誠人　北井　敏雄、工藤　洋治、障子　恵、鶴崎　健一、永井　純、長澤　光雄、広川龍太郎、福島　洋樹、松本　正之、安井　年文、山下　誠
（出席監事）：山本　俊樹
5．議　題
●協議事項
第１号議題　令和８年度事業計画書（案）承認の件
第２号議案　令和８年度事業予算書（案）承認の件
・令和８年度公益目的事業について
・資金調達計画および設備投資について
第３号議案　公益充実資金（特定費用準備資金計画）について
第４号議案　令和７年度栄賞受章候補者の承認の件
第５号議案　令和８年度／９年度時期理事、監事候補者について
第６号議案　令和８年度正会員入会承認の件
第７号議案　令和８年度～専門委員会委員について
第８号議案　第18回定時社員総会開催承認の件
第９号議案　令和８年度主催競技会要項（案）承認の件
第10号議案　実業団・学生対抗陸上／代表選手選考について
第11号議案　規定改定について
・公益充実資金取扱規定（特定費用準備資金等取扱規定）
・事務局職員給与規定
●報告事項
１．前回理事会以降の会務の報告
２．令和７年に誕生した日本学生記録の報告
３．その他
・事務局長退職金の支払いについて
6．議事の経過およびその結果
（１）定足数の確認／議長および議事録署名人の選出
（２）議案の審議および議決結果等
《協議事項》
第１号議題　令和８年度事業計画書（案）承認の件
永井専務理事より資料に基づき令和８年度事業計画書について説明があった。
・個人選手権はWUGのない年は６月開催としていたが、今後はWUGの有無に関係なく、４月末開催に固定する方針とする。
・実業団・学生対抗陸上競技大会は暑熱対策のため６月27日にレモンガススタジアム平塚にて開催する。
・日本ICの男女10000ｍ種目についても暑熱対策や駅伝シーズンとの兼ね合い等を鑑みて、４月末に開催する個人選手権と併催する形とし、競歩種目は10000ｍではなく5000ｍに短縮して９月の日本インカレにて行う。各地区ICにおいて競歩種目をどちらの距離で開催するのかについては、各地区学連の判断に任せる。
・出雲駅伝についても熱中症の問題があるため、フジテレビと午前中のスタートに変更ができないか交渉を行っている。
・主要駅伝やマラソン大会も日程調整や運営上の工夫で継続を予定している。
審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。
第２号議案　令和８年度事業予算書（案）承認の件
大西事務局長より、資料に基づき令和８年度事業予算書案について説明。
資金収支ベースの資料の通り、事業活動収入および事業活動支出ともに１億3,580万円とし、令和８年度は均衡予算として編成。
正味財産増減予算書（損益ベース）、収入面では基本財産および特定資産の運用益、会費収入、協賛金、放映料、参加料、広告料、入場料収入等を計上。
協賛金および補助金については、前年度実績等を踏まえ一部減額としている。
審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。
第３号議案　公益充実資金（特定費用準備資金計画）について
大西事務局長より、資料に基づき公益充実資金（従来の特定費用準備資金計画）について説明があった。
本資金は、従来の特定費用準備資金取扱規程に基づき運用してきたものであり、今後は「公益充実資金」という名称で扱うこととなり、令和８年度におい

向上と進展会報176.indd　16　2026/05/15　12:06

ては、海外ロードレース派遣および競技者育成奨励金に係る資金の取崩しと、新たな積立計画等の実施について説明。審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第４号議案　令和７年度栄賞受章候補者の承認の件

永井専務理事より、別紙に基づき令和７年度栄賞受章候補者について説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第５号議案　令和８年度／９年度時期理事、監事候補者について

永井専務理事より、資料５に基づき令和８年度/9年度時期理事、監事候補者について説明。関東学連推薦の理事３名については現在調整中であり、次回理事会までに候補者を推薦する予定である。これらの候補者は、理事会で承認後、定時社員総会において決定する予定である。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第６号議案　令和８年度正会員入会承認の件

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第７号議案　令和８年度～専門委員会委員について

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第８号議案　第18回定時社員総会開催承認の件

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第９号議案　令和８年度主催競技会要項（案）承認の件

令和８年度主催競技会要項案について説明があった。

第10号議案　実業団・学生対抗／代表選手選考について

資料に基づき実業団・学生対抗／代表選手選考について説明があった。

学生代表選手の選考方法について、競技会日程の関係で今年は2026日本学生陸上競技個人選手権大会を選考対象競技会とする。大会位置づけについて、日本GPシリーズ第10戦である。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第11号議案　規程改定について

資料に基づき公益充実資金取扱規程（特定費用準備資金計画）について説明があった。

2025年４月の公益法人認定法の改正と、関連する会計基準が新基準へ移行することとなった。会計基準の適用には2028年度までの猶予があるが、法律自体はすでに施行されているため、2025年度決算および2026年度予算から新たな用語を使用する必要がある。このため、関係規程の改定を行うものである。

主な変更点として、これまでの特定費用準備資金のうち公益事業に関わるものは、公益充実資金へ名称が変更される。制度改正の趣旨として、この資金の活用のハードルをやや下げ、公益事業への活用を促すことが説明会等で示されている。ただし、具体的にどのような事業が対象として認められるかについては事例が十分に蓄積されていないため、今後は他の公益法人の運用状況等も参考にしながら有効活用を検討していく。

また、文言上の変更として、従来の遊休財産は使途不明財産へ名称が変更された。これは、具体的な用途が定まっていない財産を指すものであり、原則として年間の事業費を超える額を内部留保のように保有することはできないとされている。

さらに、公益事業で単年度黒字を出さないこととといったこれまでの収支相償の考え方は、中期的収支均衡へと改められた。従来は原則として単年度での収支均衡が求められていたが、改正後は５年間の期間内で収支を均衡させればよいとされ、複数年度での収支調整が可能となっている。詳細については、資料23ページから27ページを参照いただきたい。

工藤常務理事より事務局職員給与規程について説明があった。

資料のとおり、事務局職員給与規程の改定を行う。主な改定点として、第２条において、これまで給与は基本給および通勤手当で構成していたが、これに職務手当を新たに追加する。これは昨今の社会情勢を踏まえ、給与水準の調整を行うために設けるものである。

また、第６条を新設し、通勤手当および職務手当に関する規定を整理する。通勤手当は合理的な通勤経路に基づき実費支給とし、職務手当は職員の地位や職務内容等を勘案し、必要に応じて月額２万円を上限として支給する。具体的な支給額は専務理事が決定する。今回の職務手当の新設は物価上昇等を踏まえた緊急的対応であり、今後は社会状況の変化も踏まえ、事務局職員の待遇や給与制度のあり方について引き続き検討していく必要がある。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理

向上と進展会報176.indd　17　2026/05/15　12:06

事全員一致で可決した。

《報告事項》

１．前回理事会以降の会務の報告

永井専務理事より資料に基づき前回理事会以降の会務について報告があった。

２．令和７年に誕生した日本学生記録の報告

資料に基づき令和７年に誕生した日本学生記録について報告があった。

あわせて、世界大学クロスカントリーについて、山下常務理事より報告があった。

３．その他

永井専務理事より資料に基づいて事務局長退職金の支払いについて報告があった。

大西事務局長が３月31日で退職となるため、退職金を規程に基づき支給する。令和８年４月１日付で再雇用になり年次契約のため退職金支給は今回限りである。

＊

以上をもって議案の審議等を終了したので、15時03分、議長は閉会を宣し、解散した。

資料　**公益社団法人日本学生陸上競技連合　2026年度（令和８年度）事業計画**

（事業目的）

公益社団法人日本学生陸上競技連合（以下、「この法人」という。）は、日本の学生陸上競技界を統括し、かつ代表する学生の競技団体として、学生陸上競技の普及・振興を図り、学生の心身の健全な発達と明るく豊かな学生生活の形成に寄与することを目的とする法人である。

（基本方針）

以上を目的とし、次の３点を軸に事業計画を策定した。

（１）学生陸上競技に関する競技会を円滑に開催する。

（２）学生陸上競技界の競技力向上を図るため、競技者の国際競技会への派遣及び外国の学生競技者の国内競技会への招致を積極的に推進する。

（３）陸上競技の普及・振興を図るため、関係団体と協力し競技者が快適に競技に取り組むことが出来る環境の整備を推進する。

■公益目的事業

公１－競技金

No.	競技会	期日	場所	種目数	参加校･参加数	備考
1	2026 日本学生陸上競技個人選手権大会	2026年 4月24日（金） ～26日（日）	レモンガス スタジアム平塚	男子18 女子18	100校…600名 100校…600名	※スポーツ振興基金助成金を申請 ※報奨金授与予定 ※日本学生対校男女10000mを期間中に開催
2	秩父宮賜杯第66回 実業団・学生対抗陸上競技大会 オールスターナイト陸上	2026年 6月27日（土）	レモンガス スタジアム平塚	男子９ 女子９ （予定）	各種目３名＋３名 による対抗戦	【後援】スポーツ庁（予定） 秩父宮賜杯＜総合優勝＞ 内閣総理大臣杯（予定）＜総合優勝＞ 文部科学大臣杯（予定）＜男子団体優勝＞ 厚生労働大臣賞（予定）＜女子団体優勝＞ →申請予定 ※グランプリシリーズに参入予定
3	天皇賜盃第95回 日本学生陸上競技対校選手権大会	2026年 9月5日（土） ～7日（月）	日産スタジアム／ 横浜市	男子22 女子22	135校/1100名 120校/900名	【表彰】 天皇賜盃＜男子総合優勝＞ 秩父宮妃杯＜女子総合優勝＞ ※スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成金申請予定※ 男女10000mは日本学生個人期間中に開催
4	第38回 出雲全日本大学選抜駅伝競走	2026年 10月12日 （月／祝）	出雲市 45.1km 全6区間		国内…21チーム 海外…1チーム	【後援】スポーツ庁（予定） 【表彰】 内閣総理大臣杯（予定）＜優勝校＞ 文部科学大臣賞（予定）＜優勝校＞ →申請予定
5	第44回 全日本大学女子駅伝対校 選手権大会	2026年 10月25日（日）	仙台市 38.0km 全6区間		25校+1チーム （東北学連選抜）	【後援】スポーツ庁（予定） 【表彰】 文部科学大臣杯（予定）＜優勝チーム＞ →申請予定
6	秩父宮賜杯第58回 全日本大学駅伝対校選手権大会	2026年 11月1日（日）	名古屋市～伊勢市 106.8km 全8区間		25校+2チーム （全日本学連選抜チーム／東海学連選抜チーム）	【後援】スポーツ庁（予定） 【表彰】 文部科学大臣杯（予定）＜優勝チーム＞ →申請予定
7	2026 全日本大学女子選抜駅伝競走	2026年 12月30日（水） 予定	富士宮市～富士市 43.8km 全7区間		22校+2チーム （全日本大学選抜チーム／静岡県学生選抜チーム）	【後援】スポーツ庁（予定） 【表彰】 文部科学大臣杯（予定）＜優勝チーム＞ →申請予定

向上と進展会報176.indd　18　　2026/05/15　12:06

8	第30回日本学生ハーフマラソン選手権大会兼ワールドユニバーシティゲームズ（2027）日本代表選考競技会	2027年 2月7日（日）	丸亀市		男子300名	香川丸亀国際ハーフマラソン大会と併催
9	第21回日本学生競歩選手権大会兼ワールドユニバーシティゲームズ（2027）日本代表選考競技会	2027年 3月中旬予定	能美市		男子100名 女子30名	全日本競歩能美と併催
10	第30回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会兼ワールドユニバーシティゲームズ（2027）日本代表選考競技会	2027年 3月中旬予定	松江市		女子100名	まつえレデースハーフマラソンと共催

公２－育成 ①競技者育成（競技会派遣等）事業

No.	事業	期日	場所	備考
1	Zevenheuvelenloop 15kmロードレース	2026年 11月15日（日）	オランダ／ ナイメーヘン	男女各4名　計８名　役員…学生幹事含め３名程度 ※地区学連推薦選手も同行可とする
2	2027東京マラソン 準エリートの部への選手推薦	2027年3月	東京	特に優秀な競技者はエリートへ推薦

公２－育成 ②競技者・指導者・審判員育成事業

No.	事業		期日	場所	備考
1	競技力向上のための巡回指導		未定	各地	地区学生陸上競技連盟の要請により講師派遣
2	競技者育成負担事業		各競技会 開催日	各地	・北日本インカレ、西日本インカレに対し補助金（共催事業） ・日本学生個人選手権大会３位入賞者への奨励金授与 ・ハーフマラソン等ロードレース３位入賞者への奨励金授与（検討）
3	普及指導者育成事業		未定	各地	SMBCとの協働事業として、普及のための指導者育成事業を推進
4	ドーピングコントロールテスト		4回（予定）	各地	日本アンチ・ドーピング機構及び日本陸上競技連盟との連携により競技会検査を実施
5	アンチドーピング アウトリーチプログラム		2回（予定）	各地	日本アンチ・ドーピング機構及び日本陸上競技連盟との連携により実施（個人選手権、日本インカレ等）
6	新規Ｂ級審判員資格認定		各地区講習会を実施	各地	約1400名（男子1000名、女子400名）
7	学生審判員研修会		2回～３回	各地	地区学生陸上競技連盟の要請により講師派遣
8	栄章贈与	功労章・ 勲功章の表彰	9月7日（月）	横浜	日本インカレ時に実施
		日本新記録・ 日本学生新記録表彰	3月7日（土）	東京	12月31日時点の記録にて決定。栄章贈与式として実施
9	第7回全国大学対校 男女混合駅伝競走大会		2026年2月	大阪	主催：関西学生陸上競技連盟　関西テレビ放送　産経新聞社 →共催として参画
10	第110回クロカン日本選手権		2027年2月	福岡	共催事業として認定し、学生クロスカントリーの普及強化を推進
11	第72回指導者会議		2027年 3月6日	東京	テーマについては後日決定／オンライン併催予定

公３－調査・研究

No.	事業	期日	場所	備考
1	陸上競技の研究調査	年3回		「陸上競技研究」誌の発行、toto助成申請予定　6月,10月,2月
2	2026年日本学生記録集の発行 （記録年鑑）	2027年3月		1000部発行／学生50傑／主催大会／競技会結果を掲載した記録集
3	陸上競技学会25回大会	年1回		主催：日本陸上競技学会→共催として参画

■法人管理部門

組織力管理

No.	事業等	期日	場所	備考
1	第78回理事会 第79回理事会 第80回理事会 第81回理事会 第82回理事会	5月16日（土） 6月20日（土） 9月4日（金） 12月12日（土） 3月6日（土）	日本学連事務所・ オンライン併用	※理事会の回数は暫定 ※臨時理事会・web会議システムによる開催の場合もある
2	第18回定時社員総会	6月20日（土）	Online	臨時社員総会・web会議システムによる開催の場合もある
3	2026年度学生役員会議 第52回学生幹部役員研修会	12月12日（土） 3月5日～6日	東京	参加対象：地区学連幹部学生役員
4	会報の刊行（広報誌）	年3回		各回1000部発行（正会員／名誉会員／役員（地区学連加盟校に配布） 内容：事業の報告、会議議事録等
5	ホームページの運営	随時		日本学連公式ホームページ・携帯サイトの運営
6	学連情報の編集・掲載	毎月		機関誌「月刊陸上競技」に掲載
7	公認競技会開催申請及び 記録公認申請	2026年度		日本学連傘下の団体の公認競技会開催受付／ 日本陸連申請日本学連傘下の団体の記録公認受付／日本陸連申請
8	会員の入会受付	2026年度		正 会 員…135名 普通会員（学生）/20,000名を想定（男子15,000名,女子5,000名） 名誉会員…40名　賛助会員…20名

向上と進展会報176.indd　19　2026/05/15　12:06

資料　令和８年度正味財産増減予算書

令和８年４月１日～令和９年３月31日まで

	公益目的事業会計（内訳表）				公益目的事業会計合計	法人会計	令和８年度予算合計（A）	令和７年度予算（C）	増減（A―C）
	公1	公2	公3	共通					
Ⅰ一般正味財産増減の部									
1．経常増減の部									
（1）経常収益									
基本財産運用益	0	0	0	70,000	70,000	70,000	140,000	4,000	136,000
基本財産利息	0	0	0	70,000	70,000	70,000	140,000	4,000	136,000
特定資産運用益	0	0	0	100,000	100,000	100,000	200,000	6,000	194,000
特定資産利息	0	0	0	100,000	100,000	100,000	200,000	6,000	194,000
受取会費	0	0	700,000	19,437,500	20,137,500	18,437,500	38,575,000	38,575,000	0
正会員受取会費				337,500	337,500	337,500	675,000	675,000	0
普通会員受取会費				18,000,000	18,000,000	18,000,000	36,000,000	36,000,000	0
賛助会員受取会費				1,100,000	1,100,000	100,000	1,200,000	1,200,000	0
陸上競技研究受取会費			700,000		700,000	0	700,000	700,000	0
事業収益	75,020,000	5,000,000	0	0	80,020,000	0	80,020,000	84,648,000	△ 4,628,000
受取協賛金	30,450,000	5,000,000	0		35,450,000	0	35,450,000	38,778,000	△ 3,328,000
受取放映料	17,600,000				17,600,000	0	17,600,000	17,600,000	0
受取参加料	9,300,000				9,300,000	0	9,300,000	9,100,000	200,000
受取広告料	3,500,000				3,500,000	0	3,500,000	5,000,000	△ 1,500,000
入場料等売上	14,170,000				14,170,000	0	14,170,000	14,170,000	0
受取負担金	9,900,000	0	0	0	9,900,000	0	9,900,000	9,756,000	144,000
受取負担金	9,900,000				9,900,000	0	9,900,000	9,756,000	144,000
受取補助金	4,550,000	0	2,300,000	0	6,850,000	0	6,850,000	9,900,000	△ 3,050,000
受取補助金				0	0	0	0	100,000	△ 100,000
受取寄付金		0			0	0	0	3,000,000	△ 3,000,000
受取助成金	4,550,000		2,300,000		6,850,000	0	6,850,000	6,800,000	50,000
雑収益	110,000	0	0	0	110,000	5,000	115,000	111,000	4,000
受取利息					0	5,000	5,000	1,000	4,000
雑収益	110,000				110,000	0	110,000	110,000	0
経常収益計	89,580,000	5,000,000	3,000,000	19,607,500	117,187,500	18,612,500	135,800,000	143,000,000	△ 7,200,000
（2）経常費用									
事業費	97,874,920	18,310,420	5,441,060	0	121,626,400	0	121,626,400	128,940,280	△ 7,313,880
給料手当	10,250,500	1,577,000	788,500	0	12,616,000	0	12,616,000	11,720,000	896,000
賞与引当金繰入額	925,600	142,400	71,200	0	1,139,200	0	1,139,200	1,066,400	72,800
退職給付費用	390,000	60,000	30,000	0	480,000	0	480,000	480,000	0
法定福利費	1,950,000	300,000	150,000	0	2,400,000	0	2,400,000	2,400,000	0
臨時雇用賃金	260,000	40,000	20,000	0	320,000	0	320,000	320,000	0
会議費	1,972,800	1,561,800	164,400	0	3,699,000	0	3,699,000	3,618,000	81,000
旅費交通費	29,170,800	7,992,000	399,600	0	37,562,400	0	37,562,400	45,812,780	△ 8,250,380
通信運搬費	1,227,400	839,800	64,600	0	2,131,800	0	2,131,800	2,719,200	△ 587,400
印刷製本費	8,372,500	295,500	98,500	0	8,766,500	0	8,766,500	8,633,000	133,500
水道光熱費	87,500	37,500	0	0	125,000	0	125,000	125,000	0
食糧費	3,700,000	0	0	0	3,700,000	0	3,700,000	3,750,000	△ 50,000
消耗品費	1,755,000	783,000	27,000	0	2,565,000	0	2,565,000	3,325,000	△ 760,000
備品費	44,000	80,000	0	0	124,000	0	124,000	155,000	△ 31,000
賃借料	9,520,000	1,904,000	136,000	0	11,560,000	0	11,560,000	8,585,000	2,975,000
リース料	64,000	256,000	0	0	320,000	0	320,000	320,000	0
諸謝金	644,000	248,400	27,600	0	920,000	0	920,000	1,880,000	△ 960,000
表彰費	1,200,000	300,000	0	0	1,500,000	0	1,500,000	4,300,000	△ 2,800,000
渉外費	30,000	10,000	10,000	0	50,000	0	50,000	80,000	△ 30,000
委託費	11,652,900	125,300	125,300	0	11,903,500	0	11,903,500	11,115,000	788,500
租税公課	2,400,000	0	0	0	2,400,000	0	2,400,000	1,600,000	800,000
支払負担金	11,523,600	1,571,400	3,317,400	0	16,412,400	0	16,412,400	15,754,400	658,000
雑費	734,320	186,320	10,960	0	931,600	0	931,600	1,181,500	△ 249,900

向上と進展会報176.indd　20　　2026/05/15　12:06

	公益目的事業会計（内訳表）				公益目的事業会計合計	法人会計	令和８年度予算合計（A）	令和７年度予算（C）	増減（A―C）
	公１	公２	公３	共通					
管理費						14,173,600	14,173,600	14,059,720	113,880
給料手当				0	0	3,154,000	3,154,000	2,930,000	224,000
賞与引当金繰入額				0	0	284,800	284,800	266,600	18,200
退職給付費用				0	0	120,000	120,000	120,000	0
法定福利費				0	0	600,000	600,000	600,000	0
臨時雇用賃金				0	0	80,000	80,000	80,000	0
会議費				0	0	411,000	411,000	402,000	9,000
旅費交通費				0	0	2,397,600	2,397,600	2,924,220	△ 526,620
通信運搬費				0	0	1,098,200	1,098,200	1,400,800	△ 302,600
印刷製本費				0	0	1,083,500	1,083,500	1,067,000	16,500
水道光熱費				0	0	125,000	125,000	125,000	0
消耗品費				0	0	135,000	135,000	175,000	△ 40,000
備品費				0	0	76,000	76,000	95,000	△ 19,000
賃借料				0	0	2,040,000	2,040,000	1,515,000	525,000
リース料				0	0	80,000	80,000	80,000	0
渉外費				0	0	50,000	50,000	80,000	△ 30,000
委託費				0	0	626,500	626,500	585,000	41,500
租税公課				0	0	600,000	600,000	400,000	200,000
払い負担金				0	0	1,047,600	1,047,600	1,005,600	42,000
雑　費				0	0	164,400	164,400	208,500	△ 44,100
経常費用計	97,874,920	18,310,420	5,441,060	0	121,626,400	14,173,600	135,800,000	143,000,000	△ 7,200,000
当期経常増減額	△8,294,920	△13,310,420	△2,441,060	19,607,500	△4,438,900	4,438,900	0	0	0
２．経常外増減の部									
（１）経常外収益									
経常外収益	0	0	0	0		0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	0		0	0	0	
（２）経常外費用									
経常外費用	0	0	0	0		0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	0		0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0		0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△8,294,920	△13,310,420	△2,441,060	19,607,500	△4,438,900	18,612,500	0	0	

向上と進展会報176.indd　21　　2026/05/15　12:06

資料　令和８年度収支予算書（資金収支ベース）

令和8年4月1日～令和9年3月31日

科目	2026年度 予算額（A）	2025年度 予算額（C）	増減 （A－C）	備考
Ⅰ　事業活動収支の部	.			
1.事業活動収入				
①基本財産運用収入	140,000	4,000	136,000	
②特定財産運用収入	200,000	6,000	194,000	
③会費収入	38,575,000	38,575,000	0	
④事業収入	80,020,000	84,648,000	△ 4,628,000	
⑤受取負担金	9,900,000	9,756,000	144,000	
⑥受取補助金	6,850,000	9,900,000	△ 3,050,000	
⑦雑収入	115,000	111,000	4,000	
事業活動収入　計	135,800,000	143,000,000	△ 7,200,000	
2．事業活動支出				
①事業費支出	121,626,400	128,940,280	△ 7,313,880	
②管理費支出	14,173,600	14,059,720	113,880	
事業活動支出　計	135,800,000	143,000,000	△ 7,200,000	
事業活動収支差額	0	0	0	
Ⅱ　投資活動収支の部				
1．投資活動収入				
①ワールドユニバーシティゲームス派遣事業資産取崩収入	0	5,000,000	△ 5,000,000	2025年度実施
②海外ロードレース派遣積立資産取崩収入	2,000,000	0	2,000,000	2026年度事業
③世界大学クロスカントリー派遣積立資産取崩収入	0	2,000,000	△ 2,000,000	2025年度実施
④競技者育成奨励事業積立資産取崩収入	2,000,000	2,000,000		
⑤普及指導者育成事業積立資産取崩収入	0	400,000		
投資活動収入　計	4,000,000	9,400,000	△ 5,000,000	
2．投資活動支出				
①ワールドユニバーシティゲームス派遣事業資産	3,000,000		3,000,000	
②海外ロードレース派遣積立資産		0	0	
③世界大学クロスカントリー派遣積立資産	2,000,000	0	2,000,000	
④創立100周年事業積立資産	500,000	500,000	0	2028年度事業に向けて
⑤競技者育成奨励事業積立資産	2,000,000	6,000,000		個人選手権奨励金等
⑥普及指導者育成事業積立資産	0	1,000,000		
投資活動支出　計	7,500,000	7,500,000	5,000,000	
投資活動収支差額	△ 3,500,000	1,900,000	△ 10,000,000	
Ⅲ.財務活動収支の部				
1．財務活動収入				
①借入金収入	-	-	0	
2．財務活動支出				
①借入金返済支出	-	-	0	
財務活動収支差額	–	–	0	
Ⅳ．予備費支出				
当期収支差額	-	-	0	
前期繰越収支差額	–	–	0	
次期繰越差額	–	–	0	

向上と進展会報176.indd　22　　2026/05/15　12:06

資料　公益社団法人日本学生陸上競技連合　令和７年度栄章受章候補者

１．功労章（栄章に関する規程　第５条）

（ア）この法人の運営に著しい功労のあった者
（イ）地区学連の運営に著しい功労のあった者
（ウ）数次にわたり各種の競技会において、学生競技者の育成に技術的貢献のあった者
（エ）国際的友好の増進のために功労のあった者

（年齢は令和８年３月31日現在）

地　区	カナ 氏　名	（上段：職業等、中段：学連関係･役職、歴任　下段：その他）
北 海 道	ナカジマ　マサキ **中島　正樹**	札幌陸上競技協会常務理事　北海道陸上競技協会理事歴任
東　北	ワタナベ　ノブアキ **渡邉　信晃**	山形大学教員 東北学連ヘッドコーチ、常任理事、　日本学連強化委員 山形大学陸上部部長、監督　　山形陸協常務理事
関　東	アカミネ　トシヒコ **赤峰　俊彦**	東京都教員 関東学連理事、競技審判委員会委員長、日本学連競技委員
関　東	ヨシダ　タカヒサ **吉田　孝久**	日本女子体育大学教員 関東学連強化委員　日本学連強化委員、 日本女子体育大学陸上部部長・監督・コーチ　法政大学コーチ
関　東	コ　フジサカ　エイジ **故　藤坂　英二**	※死亡贈与 関東学連元理事、元総務委員長　元日本学連正会員
北 信 越	ワタナベ　セイイチ **渡辺　誠一**	長野工業高等専門学校教員 北信越学連評議員 長野工業高等専門学校陸上部指導教員　長野陸協情報システム／委員
東　海	クロス　マサヒロ **黒須　雅弘**	東海学園大学教員 東海学連ヘッドコーチ／評議員、 日本学連理事／強化委員 東海学園大学陸上部監督、
関　西	トクラ　ミユキ **十倉　みゆき**	立命館大学陸上部コーチ 関西学連強化委員　日本学連強化委員 ユニバーシアード帯同コーチ経験多
関　西	ヤスダ　ケンジ **安田　賢司**	明治国際医療大学　職員・客員教授 明治国際医療大学陸上部特別顧問・総監督 大阪陸上競技協会参与
九　州	ヤギ　マサオ **八木　雅夫**	福岡国際マラソン事務局 福岡陸協副会長。理事長歴任。日本陸連理事・副会長歴任
連　合	マスダ　ケンジ **増田　憲二**	会社役員 日本学連財務委員長　正会員　日本学連総務委員歴任 関西学連幹事長　歴任
連　合	カナザワ　タケトシ **金澤　健敏**	神奈川県立城郷高等学校教員 関東学連競技審判委員 神奈川陸上競技協会専務理事　日本陸連JTO　WAブロンズ

資料　2026年度（令和８年度）正会員　退会／入会について（案）

【退会】

学識経験者：					
北海道	旭　来夏				
東　北	橘　慎吾	出口　鈴葉			
関　東	吉儀　宏	長東　文	次呂久直子		
北信越	永井望ノ美	村木　祐真			
東　海	浅野　蒼空	長島　千紘			
関　西	岡　俊輔	山田祐希奈			
中四国	宮田　浩文	黒神　郁人	小島　翠斗	藤岡奈乃子	
九　州	松永　昂大	大塚　優斗			
					計 18名

（学識経験者　：54名）	
（北海道学連　：　6名）	
（東北学連　：　7名）	
（関東学連　：23名）	
（北信越学連　：　7名）	
（東海学連　：　8名）	
（関西学連　：13名）	
（中国四国学連：　9名）	
（九州学連　：　8名）	
	合計135名

【入会】

学識経験者：					
北海道	登内　遼				
東　北	舟越　ゆな	千葉　雄翔			
関　東	辻　範夫	高山　芽生	林　桜		
北信越	伊藤　康晟	漆原　幹人			
東　海	吉田　剛				
関　西	谷　謙太郎	木野　羽月			
中四国	江﨑　和希	成松　泉輝	草野　沙月	藤山　大輔	木村　遥奈
九　州	安倍　颯志	佐藤　陽太			
					計 18名

向上と進展会報176.indd　23　　2026/05/15　12:06

資料　公益社団法人日本学生陸上競技連合　2026・2027年度専門委員会

2026年2月26日現在
（太字下線：新規・再任）

企画委員会	調整中	（委員長）			
	調整中				
総務委員会	障子　恵	（委員長）			
	岡田　晃	（副委員長）	長井　健		
	加藤　恭位	**川上　将平**	公文こころ	小林　亨輔	﨑井優希菜
	本松　貫太	**安岡あき実**			
強化委員会	山下　誠	（委員長）			
	安井　年文	（強化委員長補佐）			
	伊東　輝雄	（副委員長）			
短距離・ハードル部	遠藤　俊典	苅部　俊二	信岡沙希重	安井　年文	
中・長距離部	大後　栄治	（部長）			
	齋藤　真希	酒井　俊幸	十倉みゆき	中野　孝行	前田　康弘
	松井　一樹	吉岡　利貢	米田　勝朗		
競歩部	今村　文男	（部長）			
	酒井　俊幸	清水　茂幸	藤崎　明	三浦　康二	
跳躍部	森長　正樹	（部長）			
	青木　和浩	小林　史明	吉田　孝久		
投てき部	岡田　雅次	（部長）			
	大山下圭吾	佐々木大志	與名本　稔		
混成競技部	志賀　充	右代　啓祐	髙本　恵美		
地区学連ヘッドコーチ部会	大宮　真一	渡邉　信晃	苅部　俊二	福島　洋樹	黒須　雅弘
	小倉　幸雄	松田　亮	片平　誠人		
競技会運営委員会	羽田　雄一	（委員長）			
	大朝　太	（副委員長）	**小坂　拓**	（副委員長）	
	長野　史尚	（副委員長）			
	青柳　智之	赤峰　俊彦	石井　公一	**遠藤　洋平**	片岡　裕介
	金田　華実	小谷野香澄	**佐々木　努**	庄田　修司	関　隆史
	寺尾　浩	**中平　朋子**	**板東　孝訓**	福田　優依	藤﨑　勇次
	星野　美憂	**帆高　歩美**	**宮田　英明**		
医事委員会	蒲原　一之	（委員長）			
	大山下圭悟	（副委員長）	鎌田　浩史	（副委員長）	
医事部	蒲原　一之	（部長）			
	今井　資	小川　健	金子　晴香	鎌田　浩史	清水　如代
	高梨　幹生	田中　健太	長澤　圭吾	割澤　高行	
トレーナー部	大山下圭悟	（部長）			
	加藤　基	武井　隼児	矢嶋　友美		
アンチ・ドーピング部	鎌田　浩史	（部長）			
	石井　智也	蒲原　一之	**小島　佑基**	對崎利香子	山澤　文裕
	山下　誠				
財務委員会	増田　憲二	（委員長）			
	曽根　真人	帆高　歩美	八木新一郎		
国際委員会	益田　岳志	（委員長）			
	苅部　俊二	山下　誠			
調査研究委員会	安井　年文	（委員長）			
	青木　和浩	青山　亜紀	遠藤　俊典	大山下圭悟	金子　晴香
	杉田　正明	田内　健二	田原　陽介	丹治　史弥	本道　慎吾
	前村　公彦	吉田　孝久	和田　正信		
指導者会議運営委員会	木越　清信	（委員長）			
	障子　恵	滝川　哲也	羽田　雄一	船原　勝英	
倫理委員会	船原　勝英	（委員長）			
	原　千広	（副委員長）			
	大西　清司	障子　恵	永井　純	野寺　巧寛	
不服申立委員会	置塩　正剛	（委員長）			
	木下　澄雄	宮嶋　泰子	森田侑実重	山下　誠	

向上と進展会報176.indd　24　　2026/05/15　12:06

資料　【第18回定時社員総会開催】について

【協議事項】

1．第18回定時社員総会招集の件

①日　　時：令和８年６月20日（土）14:00 ～

②場　　所：日本学連事務所およびWeb会議システム併用にて開催予定

2．「第18回社員総会に出席しない社員は、書面または電磁的方法によって議決権を行使することができないこととする。」件

【定時社員総会予定議題】

【決議事項】

第１号議案　令和７年度（第14期）決算承認の件
（2025年４月１日から2026年３月31日まで）
貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録承認の件

第２号議案：理事の任期満了に伴う改選に関する件

第３号議案：監事の任期満了に伴う改選に関する件

【報告事項】

①令和７年度事業報告

②令和７年度日本学生陸上競技連合の会務について

③その他

資料　2025年（令和7年）諸記録章受章者一覧（日本学生新記録）

【男子】

種目	記録	氏名	大学名	月日	競技会名	会場
800m	1分45秒16	落合　晃	駒澤大学	5/3	第40回静岡国際陸上競技大会	エコパスタジアム
ハーフマラソン	59分30秒	篠原倖太朗	駒澤大学	2/2	第77回丸亀国際ハーフマラソン	香川県丸亀市
ハーフマラソン	59分30秒	リチャード・エティーリ	東京国際大学	4/6	ベルリンハーフマラソン	ドイツ/ベルリン
フルマラソン	2時間06分05秒	黒田　朝日	青山学院大学	2/24	大阪マラソン2025	大阪府大阪市
4×400mR	3分03秒64	山﨑　琉惟 平川　慧 白畑健太郎 廿浦　亮仁	東洋大学	6/8	第94回 日本学生陸上競技対校選手権大会	JFE晴れの国スタジアム

【女子】

種目	記録	氏名	大学名	月日	競技会名	会場
400m	51秒71	青木アリエ	日本体育大学	5/3	第40回静岡国際陸上競技大会	エコパスタジアム
1500m	4分11秒02	田島　愛理	順天堂大学	8/9	WAコンチネンタルツアー inオーデゲム	ベルギー・ Putbosstadion, Oordegem
100mH	12秒91	本田　怜	順天堂大学	8/16	Athlete Night Games in FUKUI	9.98スタジアム
4×100mR	43秒91	柴藤　凜 前田美結子 大林　璃音 山形　愛羽	福岡大学	7/13	第109回日本陸上競技選手権大会・ リレー競技	岐阜 メモリアルセンター 長良川競技場
棒高跳	4m31	小林　美月	日本体育大学	7/4	第109回日本陸上競技選手権大会	国立競技場
ハンマー投	66m88	村上　来花	九州共立大学	7/5	第109回日本陸上競技選手権大会	国立競技場

・新記録章の対象は、ワールドユニバーシティゲームズ種目・オリンピック種目および10000m競歩とする。ただし、競歩、マラソンの途中記録は対象としない。
・リレー種目は、単独チームを対象とし、チームに対して規程の報奨金を授与する。

向上と進展会報176.indd　25　　2026/05/15　12:06

資料

2026オールスターナイト陸上
秩父宮賜杯第66回実業団・学生対抗陸上競技大会・学生代表選手選考要項

令和８年３月７日現在

１．大会名　2026オールスターナイト陸上
秩父宮賜杯第66回実業団・学生対抗陸上競技大会
JITA-IUAUJ CLASSIC MATCH

２．大会位置づけ　日本GPシリーズ第●戦平塚大会（WRk カテゴリーF）

３．期　日　2026年6月27日(土)

４．会　場　レモンガススタジアム平塚

５．主　催　一般社団法人日本実業団陸上競技連合、公益社団法人日本学生陸上競技連合

６．後　援　厚生労働省、スポーツ庁、日本陸上競技連盟　他

７．編成方針
1. 学生トップレベルの競技力を有する競技者であり、実業団チームと互角に戦えるチームを編成する。
2. 将来、FISUワールドユニバーシティーゲームズ、オリンピックを目指すなど、国際的にも活躍が期待される競技者で編成する。

８．選考方法
1. 2026日本学生陸上競技個人選手権大会（1位～８位の者）
2. 1月1日(日)から●月●日（●）までの記録（上位者を候補とする）
3. 強化委員会からの推薦
※選考の優先順位には上記の順とする。

９．選考について　2026年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員のうち、上記選考競技会において、各個人種目記録の上位から出場を希望するもの3名を選考。

10. 競技種目
◇男子９種目　100m、400m、800m、110mH、400mH、走高跳、三段跳、砲丸投、ハンマー投
◇女子９種目　100m、400m、800m、100mH、400mH、走幅跳、棒高跳、円盤投、やり投
◇ユニバーサル　男女混合４×400mR

11. 表　彰
1. 表彰は総合並びに男女各優勝チームと個人において優秀な成績を収めた競技者に下記の賞を授与する。
2. 個人種目の表彰は第3位まで賞金を与える。
1位：5万円　2位：3万円　3位：2万円
3. 日本記録、日本最高記録、日本学生記録、大会新記録を樹立した者には副賞を与える。

【総合】
総合優勝チーム　：　秩父宮賜杯
総合優勝チーム　：　内閣総理大臣杯（予定）
男子優勝チーム　：　文部科学大臣杯（予定）
女子優勝チーム　：　厚生労働大臣杯（予定）

【個人】
最優秀選手賞　（男子）：　学生連合会長杯
最優秀選手賞　（女子）：　実業団連合会長杯
敢闘賞　（男女）：　平塚市長杯
ＭＩＰ賞　（男女）：　河野一郎杯

12. 旅費・宿泊費　旅費及び宿泊費は本部負担とする。※詳細は、大会要項に記載

13. その他
1. 競技者は、所属チームの公式ユニフォーム着用のこと。
2. 実業団チームの合意があればオープン参加を認める場合がある。
（但し、旅費・宿泊費は自己負担）

向上と進展会報176.indd　26　2026/05/15　12:06

資料　執行役員による職務執行の状況報告（2025/12/13以降）

月　日	行 事（報告内容）
12月13日（土）	第76回理事会　於：TKP新宿カンファレンスセンター
12月16日（火）	強化委員会　オンライン会議
12月16日（火）	ミズノ（株）協賛に関するミーティング　於：ミズノ東京本社
12月23日（火）	日本インカレ標準記録に関するミーティング　オンライン会議
12月23日（火）	スポーツ安全協会スポーツ活動普及奨励事業助成金申請（日本インカレ）
12月24日（水）	能登駅伝第3回ワーキング　オンライン会議
12月25日（水）	富士山女子駅伝事務局会議　於：富士市
12月25日（水）	SMBC業務ミーティング　オンライン会議
12月29日（月）～30日（火）	2025全日本大学女子選抜駅伝競走（富士山女子駅伝）　於：富士市・富士宮市
2026年	
1月　7日（水）	富士山女子駅伝・事務局会議　於：日本学連事務所
1月14日（水）	スズキ（株）大会終了挨拶（富士市市長　他同行）　於：浜松市／スズキ本社
1月15日（木）	第29回日本学生ハーフマラソン選手権大会／リリース
1月15日（木）	日本スポーツ振興センター toto助成金申請（陸上競技研究）
1月21日（水）	前田道路年始あいさつ　於：JR東／品川
1月22日（木）	ヤクルト本社協賛挨拶　於：ヤクルト本社
1月22日（木）	富士山女子駅伝対策ミーティング　於：日本学連事務所
1月23日（金）	富士山女子駅伝／フジTV 対策ミーティング　於：オンライン会議
1月23日（金）	神奈川陸上競技協会　令和8年度挨拶　於：神奈川陸協事務所
1月24日（土）	日本陸連・医務部長会議　オンライン会議
1月26日（月）	指導者会議作業ミーティング　於：日本学連事務所
1月26日（月）	株式会社明治協賛挨拶　於：明治本社
1月26日（月）	第1回令和8年度～役員候補選出会議　オンライン会議
1月27日（火）	出雲駅伝ミーティング（出雲市長／松本会長）　於：日本学連事務所
1月27日（火）	総務-競技委員会　合同ミーティング　オンライン併催会議（学連事務所）
1月28日（水）	富士山女子駅伝事務局ミーティング　於：日本学連事務所
1月29日（木）	出雲駅伝関連／フジテレビ申入れミーティング（出雲市長／松本会長他）　於：フジTV
1月30日（金）	日本スポーツ振興センター基金助成金申請（日本学生個人選手権）
1月31日（土）～2月1日（日）	第29回日本学生ハーフマラソン選手権大会　開催　於：丸亀市
2月　4日（水）	能登駅伝対策ミーティング（博報堂）　於：日本学連事務所
2月　6日（金）	富士山女子駅伝対策ミーティング　於：日本学連事務所
2月　9日（月）	富士山女子駅伝／フジTV 対策ミーティング　於：オンライン会議
2月10日（火）	明治／協賛に関するミーティング　オンライン会議
2月11日（水・祝）	日本陸連・競技運営責任者会議　オンライン会議
2月13日（金）	富士山女子駅伝／フジTV 対策ミーティング　於：オンライン会議
2月14日（土）・15日（日）	第6回全国大学対校男女混合駅伝競走大会（共催）　於：大阪／長居
2月17日（火）	富士山女子駅伝／フジTV 他関係者（各行政）ミーティング　於：オンライン会議
2月17日（火）	指導者会議　オンライン会議
2月18日（水）	SMBC業務ミーティング　オンライン会議
2月20日（金）	財務委員会　オンライン会議
2月20日（金）～21日（土）	第109回クロカン日本選手権大会（共催）　於：福岡市
2月24日（月）	富士山女子駅伝／フジTV 他関係者（各行政）ミーティング　於：オンライン会議
2月24日（月）	強化委員会　オンライン会議
2月26日（木）	第2回令和8年度～役員候補選出会議　オンライン会議
2月26日（木）	第44回企画委員会　オンライン会議
3月　4日（水）	日産スタジアム下見　於：横浜市
3月　6日（金）～7日（土）	第51回幹部役員研修会　於：東京／オリンピック青少年センター
3月　7日（土）	栄章授与式／日本学生新記録章　於：TKP新宿
3月　7日（土）	第77回理事会　於：TKP新宿
3月　7日（土）	第71回指導者会議　於：TKP新宿

向上と進展会報176.indd　27　2026/05/15　12:06

【会議報告】
第78回理事会

1．開催された日時：令和８年４月６日（月）
17：04～18：50
2．開催方法：ZOOMによるオンライン会議
3．理事総数及び定足数：現在21名、定足数12名
4．出席理事数：20名
（理事）：秋元　惠美、有吉　正博、小倉　幸雄、片平　誠人、蒲原　一之、苅部　俊二、北井　敏雄、工藤　洋治、黒須　雅弘、障子　恵、大後　栄治、鶴崎　健一、永井　純、長澤　光雄、日隈　広至、広川龍太郎、福島　洋樹、松本　正之、安井　年文、山下　誠
（監事）：細萱　智大、山本　俊樹
5．議事の経過およびその結果
（１）定足数の確認／議長および議事録署名人の選出
（２）議案の審議および議決結果等
【協議事項】
第１号議題　ＷＵＧ（2027/韓国／忠清）派遣標準記録について
山下強化委員長より、2027年度夏開催のWUGの派遣標準記録について説明があった。
代表選手選考要項の本文は、詳細なレギュレーションがJOCよりまだ出ていないため後日作成となる。競技会シーズンに入るため、先行して派遣標準記録を公表する必要があり、強化委員会案として提案したい。
安井強化委員長補佐、および大後強化委員より提案内容の補足説明があった。
中・長距離の記録設定について不公平感が生じるのではとの指摘が入り、いろいろと意見が出されたが、審議の結果、記録一覧に説明文書（別紙）を付帯することにより、強化委員会が提案する記録を成案とすることを出席理事全員一致で可決した。
尚、従来の派遣標準記録を選考対象記録という名称に変更することとした。
【報告事項】
- FISU世界大学クロスカントリー選手権大会に関する新しい情報が提供された。
３月に日本代表をイタリア・カッシーノに派遣した際、次回のクロスカントリーは、2027年１月15日～25日に開催される冬季ユニバーシアード（中国／長春）において開催されるとの報告があった。初めてのケースであり、日本オリンピック委員会からの情報を待って、日本学連として対応することとした。

ワールドユニバーシティゲームズ（2027/韓国／忠清）選考対象記録

男子		女子	
種目	選考対象記録	種目	選考対象記録
100ｍ	10.35	100m	11.55
200m	20.84	200m	23.43
400m	46.25	400m	52.60
800m	1.46.48	800m	2.01.97
1500m	3.39.22	1500m	4.10.81
5000m	13.40.92	5000m	15.47.24
10000m	28.28.99	10000m	32.53.04
ハーフマラソン	1.04.00	ハーフマラソン	1.16.00
110mH	13.70	100mH	13.25
400mH	49.70	400mH	57.39
3000mSC	8.35.59	3000mSC	9.44.66
20㎞競歩	1.23.28	20㎞競歩	1:34:17
(ハーフマラソン競歩)	1.28.57	(ハーフマラソン競歩)	1.41.13
走高跳	2.18	走高跳	1.84
棒高跳	5.35	棒高跳	4.15
走幅跳	7.73	走幅跳	6.32
三段跳	16.25	三段跳	13.43
砲丸投	19.00	砲丸投	17.00
円盤投	59.00	円盤投	56.32
ハンマー投	71.16	ハンマー投	64.06
やり投	75.00	やり投	56.00
十種競技	7250	七種競技	5754

（記録の説明／選考対象記録）
各種目の競技特性及び過去大会の結果・実績を踏まえて、過去３大会における５位～７位の平均記録、または同５位～７位の選手のPB(当時)の平均記録※のいずれかを種目ごとに選択し設定した。ただし、前回大会の派遣標準記録が上記を上回る場合等は、変更せず当該記録とした。
※当時の記録が不明な場合は推定値を求め算出。

向上と進展会報176.indd　28　2026/05/15　12:06

第51回学生幹部役員研修会

常任幹事　八馬 瑚々美

1．会議名：第51回幹部役員研修会
2．期　日：2026年３月６日（金）～７日（土）
3．場　所：国立オリンピック記念青少年総合センター
　　センター棟404号室
4．派遣学生幹事（敬称略）
桑原　悠真、河本　賀帆、村上　奈穂、露木　彰映、八馬　瑚々美、原口　優芽、登内　遼、河本　拓磨、成田　ことり、舟越　ゆな、千葉　雄翔、新井　瑞己、林　桜、高山　芽生、吉村　美絵子、伊藤　康晟、漆原　幹人、吉田　剛、林　知毅、福原　幹太、正井　遥希、谷　謙太朗、木野　羽月、葉玉　純、成松　泉輝、草野　沙月、伊津野　志、佐藤　陽太、安倍　颯志　計29名
5．総括
今回の学生幹部役員研修会は、昨年と同様に対面で２日間かけて開催いたしました。

個人情報の取り扱いについて、文書作成の基本について、学生役員として活動する心構えについて、公認競技会申請および記録公認申請の手順や注意事項について、2026競技規則修改正についてなど、広範囲の分野で研修を行いました。

また、座学での研修会に加え、「補助員などの負担軽減や待遇改善」をテーマに、各地区学連の現状や対策案の発表・意見交換も行いました。発表後には、他地区で実施されている取り組みを自分の地区でも導入したいという感想も多く上がりました。物価上昇や働き方改革の重要性が高まる昨今の状況の中、労働時間や日当、心理的負担といった課題とその対応策について意見を交換し合える機会を設けることができたことは、非常に意義のあることだと感じております。

各地区学連でのさまざまな取り組みについて、毎年情報交換を行って学びが深まるばかりの本研修会ですが、今回の研修会でも各地区学連の交流が活発に行われ、非常に有意義なものとなりました。今後も各地区学連同士連携し、高め合いながら、学生陸上競技界の向上と進展に努めていくよう精進してまいります。

2025年日本学生新記録章贈与式

1．日　時：令和８年３月７日（土）12：30～13:00
2．場　所：TKP新宿カンファレンスセンター ホール5E

2025年に日本学生新記録を樹立した以下の選手および指導者に対し、日本学連・松本会長より、章記と報奨金が贈呈されました。

日本学生記録

●落合　晃（おちあい　こう）駒澤大学
男子800ｍ：１分45秒16（2025年５月３日）
第40回静岡国際陸上競技大会
指導者：駒澤大学・総監督
　　大八木　弘明（おおやぎ　ひろあき）様

●篠原　倖太朗（しのはら　こうたろう）
樹立時：駒澤大学／現：富士通
男子ハーフマラソン：59分30秒（2025年２月２日）
第77回丸亀国際ハーフマラソン
指導者：駒澤大学・総監督
　　大八木　弘明（おおやぎ　ひろあき）様

●リチャード エティーリ　東京国際大学
男子ハーフマラソン：59分30秒（2025年４月６日）
ベルリン・ハーフマラソン
指導者：東京国際大学駅伝部・監督代行
　　中村　勇太（なかむら　ゆうた）様

●黒田　朝日（くろだ　あさひ）青山学院大学
男子マラソン：２時間06分05秒（2025年２月24日）
大阪マラソン2025
指導者：青山学院大学陸上競技部・監督
　　原　晋（はら　すすむ）様

●東洋大学
（山﨑　琉惟・平川　慧・白畑　健太郎・廿浦　亮仁）
男子４×400ｍＲ：３分03秒64（2025年６月８日）
第94回日本学生陸上競技対校選手権大会
指導者：東洋大学陸上競技部・監督
　　梶原　道明（かじはら　みちあき）様

●青木　アリエ（あおき　ありえ）日本体育大学
女子400ｍ：51秒71（2025年５月３日）
第40回静岡国際陸上競技大会
指導者：日本体育大学陸上競技部・コーチ
　　大塚　光雄（おおつか　みつお）様

●田島　愛理（たじま　あいり）順天堂大学
女子1500m：４分11秒02（2025年８月９日）
ＷＡコンチネンタルツアーinオーデゲム
指導者：順天堂大学陸上競技部・コーチ
　　仲村　明（なかむら　あきら）様

向上と進展会報176.indd　29　　2026/05/15　12:06

●**本田　怜**（ほんだ　れい）順天堂大学
女子100ｍＨ：12秒91（2025年８月16日）
Athlete Night Games in FUKUI
指導者：順天堂大学陸上競技部・コーチ
福島　千里（ふくしま　ちさと）様

●**福岡大学**
（柴藤　凜・前田　美結子・大林　璃音・山形　愛羽）
女子４×100ｍＲ：43秒91（2025年７月13日）
第109回日本陸上競技選手権大会・リレー競技
指導者：福岡大学陸上競技部・コーチ
信岡　沙希重（のぶおか　さきえ）様

●**小林　美月**（こばやし　みつき）日本体育大学
女子棒高跳：４ｍ31（2025年７月４日）
第109回日本陸上競技選手権大会
指導者：日本体育大学陸上競技部・監督
小林　史明（こばやし　ふみあき）様

●**村上　来花**（むらかみ　らいか）九州共立大学
女子ハンマー投：66ｍ88（2025年７月５日）
第109回日本陸上競技選手権大会
指導者：九州共立大学陸上競技部・監督
疋田　晃久(ひきた　あきひさ)様

栄章贈与式に出席した選手、指導者たち

向上と進展会報176.indd　30　2026/05/15　12:06

【会議報告】

令和７年度 第71回指導者会議

・開催日

令和８年３月７日（土）

・開催方法

対面およびオンライン会議

・会議プログラム

指導者会議のこれまでとこれから

１．史料にみる指導者会議70年の歩み

２．指導者会議における陸上競技用語をめぐる議論

３．学連トレーニング方式の実践とブレイクスルー

・演　者

プログラム１

大林　太朗（筑波大学　体育系）

プログラム２

杉浦　澄美（筑波大学　体育系）

プログラム３

永井　純（専務理事）

・司　会

船原　勝英（倫理委員会　委員長）

木越　清信（指導者運営委員会　委員長）

・まとめ

船原　勝英（倫理委員会　委員長）

本稿では会議の概要について報告する。

【プログラム１】

・学生陸上の端緒から日本学連の創設

大林）通史上、学生陸上の始まりは1878年の札幌農学校の競技とされている。1907年に学校間の競技会が開催されるようになり、この年が学連としての陸上競技史の起点と理解されている。1919年に、関東学連のルーツとされている全国学生陸上競技連合ができた。1920年代に入り、アメリカの大学陸上協会の規約を学連の担当者が翻訳し、その中で学連の独立自治という考え方がこの段階で認識された。1928年に第１回日本インカレが始まり、そこでの発会式を経て日本学連が創設された。

・日本学連の発展と戦争の影響

大林）1930年代に入ると各年度に対校選手権や日米の学生対抗戦を開催したり、1935年にはブダペストでの国際大会（現在のWUG）に出場したりするなど、国際的な舞台に加盟し、地位を確かなものにした。ただ、1940年代は大戦の影響もあり、事実上の解散状態となったとされている。戦後1947年には日本インカレが５年ぶりに開催され、またこの年から天皇賜盃が与えられた。そして翌年から女子競技種目が開始された。

・指導者会議の発足

大林）1953年に戦後初の海外遠征となるドルトムントでの国際大会（現在のWUG）に参加。全体として３位という結果を収めたが、当時監督として同行していた大島健吉（当時日本学連ヘッドコーチ）は世界との差を痛感し、帰国後の1955年に第１回の指導者会議を行った。基本方針としては国内の指導者のレベル向上、そしてそのための科学と指導現場の融合による科学的思考と実践を深めることであった。

・会議の歩みと議題の変遷

大林）資料を通読し、私なりに４つの時代区分をさせていただいた。創設当初は講習会的な色彩が強く、高体連指導者からの参加もあり、効果は大きかったと考える。会議と並行して、日本学連トレーニング方式が確立され、他のスポーツ界にも影響を与えた。続いて1960年代後半から、70年代にかけての約15年間で区切った。理論的な体系を整えた指導者会議は、国際的な議論の擦り合わせと科学との融合を本格的に進めていく時代となった。続いて80年代となると女子選手に関する話題が出てくるようになる。女子強化を主眼においたシンポジウムや健康に関する踏み込んだテーマが軸となる回も散見されるようになる。４つ目として2000年代以降で、ここで日本陸上競技学会が立ち上がり、そことの協調が重視されるようになる。学校での陸上競技に関する授業づくりやアスリートの盗撮防止、また熱中症対策など現在に通ずる話題も議論され始める。総じて、どのように競技力を高めるかの議論とともに、いかに学生アスリートを守るかという論点が厚みを増してきたとみえる。

・指導者会議への見解

大林）1955年の発足以来、70回を数えたこの会議は、我が国の学生陸上界に新しい問いを生み、学術研究と実践の往来を通してその解決に資する知見を紡いできた。そこでは、科学者と指導者、学生アスリートまでもが集う唯一無二の空間があったのだと思う。そして、70年間の確かな歩みのなかで培われた

向上と進展会報176.indd　31　2026/05/15　12:06

自負と使命感は、ひいてはこれからの指導者会議の在り方と役割を考える上で重要な論拠となるものとなるだろう。

【プログラム２】

・指導用語概念の明確化

杉浦）学連指導者会議設立時から「陸上競技用語の概念規定」についての議論が行われていた。議論の問題意識は、競技者や指導者の間で起きている用語と理解の不一致が、研究や競技実践、ひいては日本陸上界の発展に対して障害となるという点であった。また、1959年から1960年にかけては、指導者会議が中心となって陸上競技用語研究委員会が組織され、議論の末に「近代陸上競技の用語」がまとめられた。例えば、走高跳の跳躍方法について、「正面跳」が削除され、跳躍の仕方（跳び方）をより的確に形容した「はさみ跳」に統一された。このように、陸上競技用語に関する議論では、競技者がその用語から正確な動きのイメージを得られるか、という点が着目されていた。

・会議での議論

杉浦）また、1956年から1964年ごろにかけては、指導者会議が舞台となり跳躍の踏み切りに関する議論、いわゆる「つっぱり論争」が行われていた。加藤橘夫によれば、その議論は科学者に対する経験論者の挑戦であるかのような様相を呈したという。数年の指導者会議での議論を通じ、より複合的な面から動きを把握する必要があるのではないかという考えが生まれた。

・議論の終着点と用語を深く理解することの重要性

杉浦）陸上競技用語は、技術やトレーニングの進展に対して重要視され、指導者会議では設立当初から議論されてきたことがわかった。つっぱり論争について加藤が書いたように、正しいことを言う研究者に対する経験論者の挑戦という構図ではなく、どうしたら良い実践につながるのかという問題意識を共有したうえで、研究者の視点と実践者の視点とをどのように組み合わせていくか、という方向に議論が進んでいた。動きに関する言葉の表現は非常に複雑で、陸上競技用語をめぐる当時の議論は現在の指導現場でも通ずる問題である。元来人が言葉に求める意味の把握というものはかなり身体と結びついていると考えられ、競技者と指導者の間、指導者間や研究者同士においても、言葉を尽くした議論の大切さを再認識させられた。

【プログラム３】

・日本学連トレーニング方式の出会い

永井）当時の陸上界としては迫りくる東京五輪、次は高地で行われるメキシコシティに向けて気運があがっていた。それに加えてスポーツを科学的に捉える風潮が生まれてくるなかで、指導者会議から学連トレーニング方式というものが確立された。これは海外の方式に検討を加え、日本の現状を勘案して作られたものであったため、コーチもおらずただ走って鍛えていた当時の高２の私には非常に刺激的なものであった。

・実践と成長

永井）陸上競技マガジンに掲載された学連トレーニング方式には、酸素摂取能力だとか科学的なことが丁寧に書かれていた。これを見ることが楽しみとなっていた。大学進学後も、それを参考にして、自分のトレーニングを組み立て、後輩のトレーニングも作ったりしていた。この方式の優秀な実践者だったと回想する。実際に東京五輪の年の日本選手権では優勝することができた。ただ記録は低調だった。

・日本学連トレーニング方式の限界

永井）大４の際に青山学院大学の院長や体育会のOB会長から、青山学院大学を箱根駅伝に出場させてもらえないかという誘いがあり、熟考の末引き受けた。その頃には日本学連トレーニング方式はしっかりと身につけていたので、ある程度までの強化は順調にできて箱根駅伝でもシード獲得まではたどり着いた。ただ日本学連トレーニング方式はある程度の強化ができても、それからブレイクスルーするためにはその人にあったトレーニングをしなければならないことが分かった。それが日本学連トレーニング方式との決別だった。

・アプローチの転換

永井）それからスキー場に50日間入りこんだことがあった。ただ滑るだけでなく急斜面で上体を固めて、膝下だけで滑るなどして、下半身や上半身の強化、身体のバランスなどができ、身体つきも大きく変わった。他にもバドミントンなどいろいろな種目をやったら、記録が格段に伸びた。それから800ｍで日本記録を更新するレベルに到達。メキシコ五輪の代表選考にも滑り込むことができた。

・今の指導者会議の課題

永井）日本学連においての指導者会議の存在は、71年も続いているからこそこの存在は重いものだと思

向上と進展会報176.indd 32　2026/05/15 12:06

う。良いことはやっていると思うけど、やり方が少し好ましくないのかなと感じることもある。これまでに歴史の中から内容的には幅広く世に貢献できる存在になることが必要だと思うし、指導者会議から派生した日本陸上競技学会とジョイントしたりしてもっと広く活動した方が良いのではないかと感じている。

【本シンポジウムのまとめ】

船原）70年に及ぶ指導者会議の長い歩みを、スポーツ史の専門家である大林先生に分析・位置付けをしてもらった意義は大きい。初期の成果である「学連トレーニング方式」がまとめられた時代背景には東京オリンピック開催という大きな課題があり、当時の最先端の学者が集まって熱心に論議され、研究成果が体系化された。

杉浦先生による「プログラム２」では、競技用語の共通理解がなかったことで研究や指導の現場での混乱が生じ、競技用語の統一、概念規定から始まったことが紹介されている。当時は競技の外形的な経過の分析と、現場指導者の感覚とは大きなずれがあった。典型的だったのは、物理学者の小野勝次さんが走幅跳の踏み切りを「突っ張り」と表記したことで、現場指導者から多くの疑問や反発が上がったケース。現場の感覚では、踏み切りは「たたく」意識が強かったため、物理的な分析が受け入れられなかった。

小野さんは、水平スピードを上方向へ変えるには「突っ張り」踏み切りが効果的と指摘。走高跳で画期的な技術の変化があるとすれば、ベリーロールがいいとか、正面跳がいいかという問題ではなく、スピードを利用する技術だけにあると述べている。当時、背面跳は生まれていなかったが、最もスピードを生かせる背面跳の出現を予言するような鋭い見立てだった。

初期の会議を主導した大島鎌吉さんは科学的な見方ができる人物だったが、三段跳の五輪メダリストとすれば、五輪を控えてパフォーマンスを発揮できない選手たちに物足りなさを感じ、メンタル面での弱さを「根性」に求めた。本番の東京五輪では、金メダルを獲得した女子バレーボール大松監督らの成功で「根性論」が一世を風靡。日本学連トレーニング方式によって確立された科学的なトレーニングは影が薄くなった。スポーツ心理学によるメンタル面の腑分けも不十分で、現場のコーチにも科学的な取り組みを活かせるレベルになく、競技力向上にはなかなか結び付かなかった。

今後の指導者会議は、研究者と現場の指導者が一堂に会して最先端の研究成果を共有することが大事。大量の知識や情報が得られる現代だからこそ、それを整理・分析し、トレーニングに関する総合知、新しい時代の日本学連トレーニング方式を作り上げるべきではないか。

向上と進展会報176.indd　33　2026/05/15　12:06

令和７年 日本学生陸上競技連合
会員について（2025年度）

正会員　135名　　普通会員　20,786名　　賛助会員　16名

日本学生陸上競技連合　普通会員の各月変遷

単位：人

	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中四国	九州	月合計
年度前	343	630	5, 506	689	1, 377	3, 044	1, 237	1, 043	13, 869
4月	257	193	2, 335	264	78	299	361	422	4, 209
5月	21	73	671	155	225	383	124	115	1, 767
6月	15	29	123	31	86	96	63	51	494
7月	8	2	106	19	23	41	43	10	252
8月	5	3	45	1	2	13	13	6	88
9月	1	3	27	7	1	8	8	4	59
10月	0	1	16	0	3	1	1	14	36
11月	0	1	5	0	5	8	1	1	21
12月	0	0	1	0	0	1	0	1	3
1月	0	0	2	0	0	1	0	0	3
2月	0	0	13	0	0	0	0	1	14
退会者			−11		−3	−13	-1	−1	−29
合計	650	935	8, 839	1, 166	1, 797	3, 882	1, 850	1, 667	20, 786

前回理事会（12/13）20,767名（11月末集計分）➡ **増員数　19 名**

【参考：普通会員数の推移】

単位：人

年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中国四国	九州	合計	前年比	5年前比	10年前比
2025	**650**	**935**	**8, 839**	**1, 166**	**1, 797**	**3, 882**	**1, 850**	**1, 667**	**20, 786**	**917 ↑**	**2, 612**	**696**
2024	651	910	8,480	1,059	1,703	3,642	1,796	1,628	19,869	372 ↑	−427	413
2023	644	954	8, 282	1, 002	1, 649	3, 654	1, 776	1, 536	19, 497	580 ↑	−1, 245	923
2022	597	854	8, 046	942	1, 639	3, 580	1, 735	1, 524	18, 917	352 ↑	−1, 866	743
2021	560	890	7, 883	915	1, 667	3, 517	1, 654	1, 479	18, 565	391 ↑	−2, 132	687
2020	556	896	7, 704	914	1, 610	3, 419	1, 600	1, 475	18, 174	−2, 122 ↓	−1, 916	933
2019	702	979	8, 373	996	1, 938	3, 764	1, 787	1, 757	20, 296	−446 ↓	840	3, 444
2018	726	1, 017	8, 487	1, 024	2, 073	3, 808	1, 832	1, 775	20, 742	−41 ↓	2, 168	4, 085
2017	749	973	8, 588	1, 009	2, 098	3, 758	1, 853	1, 755	20, 783	86 ↑	2, 609	4, 450
2016	756	933	8, 578	1, 009	2, 088	3, 689	1, 884	1, 760	20, 697	607 ↑	2, 819	4, 483
2015	705	943	8, 221	1, 021	2, 007	3, 547	1, 904	1, 742	20, 090	634 ↑	2, 849	4, 269
2014	680	929	7, 981	965	1, 936	3, 507	1, 843	1, 615	19, 456	882 ↑	2, 604	4, 230
2013	628	914	7, 547	903	1, 835	3, 383	1, 781	1, 583	18, 574	400 ↑	1, 917	3, 991
2012	640	910	7, 273	832	1, 826	3, 360	1, 736	1, 597	18, 174	296 ↑	1, 841	3, 969
2011	711	933	7, 065	834	1, 756	3, 236	1, 723	1, 620	17, 878	637 ↑	1, 664	3, 929
2010	688	919	6, 792	821	1, 686	3, 106	1, 653	1, 576	17, 241	389 ↑	1, 420	3, 374
2009	715	878	6, 641	879	1, 611	3, 000	1, 630	1, 498	16, 852	195 ↑	1, 626	2, 920
2008	754	952	6, 626	822	1, 480	2, 923	1, 598	1, 502	16, 657	324 ↑	2, 074	
2007	651	977	6, 497	799	1, 426	2, 870	1, 520	1, 593	16, 333	119 ↑	2, 128	
2006	651	1, 005	6, 452	743	1, 493	2, 829	1, 471	1, 570	16, 214	393 ↑	2, 265	
2005	636	1, 041	6, 258	763	1, 429	2, 728	1, 441	1, 525	15, 821	595 ↑	1, 954	
2004	599	984	6, 118	751	1, 321	2, 605	1, 410	1, 438	15, 226	643 ↑	1, 294	
2003	587	885	5, 864	749	1, 257	2, 519	1, 311	1, 411	14, 583	378 ↑		
2002	604	841	5, 663	755	1, 184	2, 478	1, 259	1, 421	14, 205			

向上と進展会報176.indd　34　　2026/05/15　12:06

令和8年度　賛助会員（4月30日現在　五十音順、敬称略）

ご入会ありがとうございました

阿保　雅行　　安藤　好郎　　石黒　成彬　　入江　毅　　河野　洋平　　櫻井　孝次　　田中　淳浩
外山　康臣　　東川　安雄　　藤井　邦夫　　藤田　幸雄　　外園　隆　　山崎　健

令和8年度オフィシャルパートナー（4月30日現在）

公益社団法人日本学生陸上競技連合はご覧のオフィシャルパートナーの皆様にご支援いただいております。
心より感謝申し上げます。

株式会社三井住友フィナンシャルグループ	株式会社明治
四国化成ホールディングス株式会社	株式会社福山
ミズノ株式会社	株式会社Qvou
マット株式会社	非破壊検査株式会社

この法人の目的及び活動に賛同し賛助する個人又は団体の方は、是非ご検討ください。

〈年会費〉 賛助会員　￥10,000（1口）
※年会費は毎年納入していただく必要があり、年度内（３月31日）まで有効となります。
※本法人への賛助会費は寄付として扱われ、所得税等の納税控除の対象となります。

〈特典〉 ・会報への氏名・団体名の記載
・天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会への無料入場

［発行所］公益社団法人 日本学生陸上競技連合　〒151-0053　東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542　FAX 03-5304-5569

編集後記

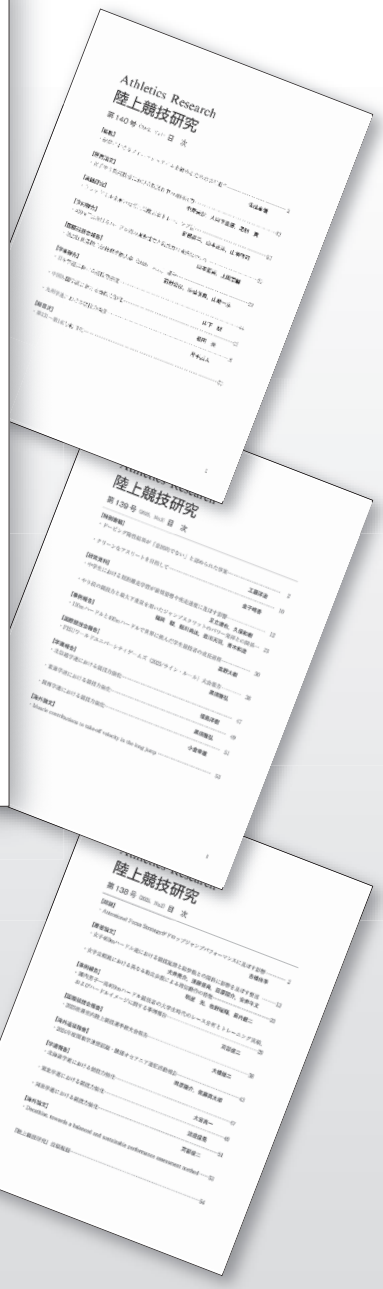
会報第175号発刊以降の事業では、令和８年２月１日（日）に第29回日本学生ハーフマラソン選手権大会が香川丸亀国際ハーフマラソン大会と併催で開催されました。令和８年３月15日（日）には第29回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会が松江レディースハーフマラソンと併催で開催されました。同日に第20回日本学生競歩選手権大会が全日本競歩能美大会と併催で開催されました。競歩についてはいままで20㎞で行っていましたが世界陸連からの通達で、今大会よりハーフマラソンの距離で行うことになりました。

令和８年３月７日（土）には今年度最後となる第77回理事会が開催されました。開催に先立って日本学生新記録章などの栄章の授与式が行われました。理事会では令和８年（2026年）の事業計画等が承認されました。事業計画とは、公益目的事業①競技会設定と運営、②競技者育成（競技会派遣）、③競技者・指導者・審判育成、④調査・研究になります。また法人管理部門では理事会の日程の設定、定時社員総会の日程の設定、学生役員会議、学生幹部役員研修会、会報の刊行、ホームページの運営、学連情報の編集・掲載、公認競技会開催申請及び記録公認申請、会員の入会の受付などになります。事業計画に併せ令和８年度の予算が協議され承認されました。事業計画と予算、事業報告と決算は一対のものとなります。事業報告と決算は次回の理事会に協議事項になります。公益社団法人日本学生陸上競技連合は内閣府の管轄になるため、今年は法人になる時に申請した書類と大きく違っていないかのチェックを受けました。本法人は事務局がしっかりしているため、細かな指摘だけでした。

今年度は令和８年・９年の役員が改選される年です。役員とは理事（学識経験者等11名･地区学連選出理事11名）、監事２名になります。選出が遅れている関東学連選出理事３名を除き承認されました。ただし役員については社員総会で承認を受けなければならないため、正式には６月の社員総会後になります。毎年３月に選考され日本インカレ時に表彰される栄章の方が承認されました。内容は功労賞で条件としては、（ア）この法人の運営に著しい功労のあった者（イ）地区学連の運営に著しく功労のあった者（ウ）数次にわたり各種の競技会において、学生競技者の育成に技術的貢献のあった者（エ）国際的友好の増進のために功労のあった者になります。また毎回の理事会では執行役員の職務執行の状況報告などが行われます。会報176号の編集後記は以上になります。　（副会長兼専務理事　永井　純）

向上と進展会報176.indd　35　　2026/05/15　12:06

「陸上競技研究」購読のご案内



第 140 号
2026, No.1
2026年２月発行

スポーツくじ WINNER toto BIG

公益社団法人 日本学生陸上競技連合は機関研究誌『陸上競技研究』を発行しています。
購読会員として入会ご希望の方は , 年会費 (6,000 円) を下記へ郵便振替にてご送金ください。

口座記号番号　00190-4-142923

加入者名　㈱陸上競技社　陸上競技研究

通信欄に「何号から１年間」と必ず明記してください。
バックナンバーについては㈱陸上競技社 (TEL03-5215-8881) にお問い合わせください。

※第141号（2026, No２）は2026年６月発行予定です。

㈱陸上競技社　〒101-0051　東京都千代田区神田神保町３-２-６　TEL. 03(5215)8881　FAX.03(5215)8882　http://www.rikujyokyogi.co.jp